



ノースブラで出歩き男を誘う寂しいセックスレス妻・栄子





え、栄子さん……!

はあ……


はあ……



旦那さんは  
分らない人だ  
あなたはとても  
素敵なのに……



あ……だ、ダメ……  
准一くん……!



第1話  
人妻と初めての淫猥



あ…  
す、すごい…



ほら、俺のチ○チン  
さつきより大きく  
なってるでしょ？

ぼっまん  
ぼっまん



あ！  
ち、乳首は  
ダメえ…！



あなたの胸が  
こうさせたんですよ？

おにゅ

ぎゅお





じゅ、  
准一くん……!



はあ……

はあ

や、ん!  
ああっ!



それは、  
1時間前に遡る……



どうして、俺がこんな  
素敵な状況になったのか……



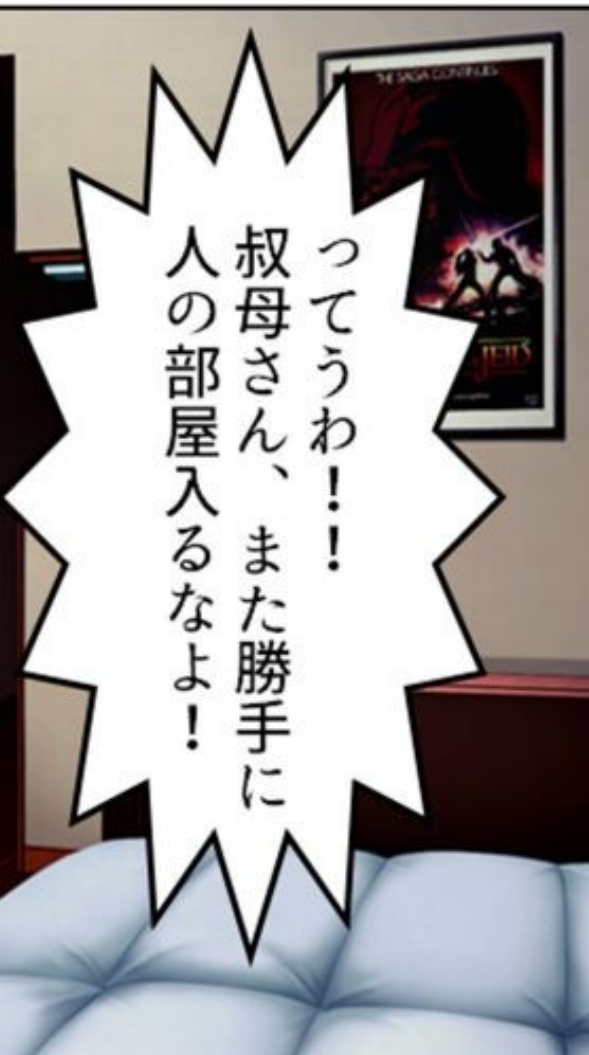
おっかえりー  
遅かったわねえ



誰もいないけど  
ただいまー



っとうわ!!!  
叔母さん、また勝手に  
人の部屋入るなよ!






いいじゃない別にー  
このマンション、  
旦那と私の所有物なんだし




いや、それ理由に  
ならないって…




それに、このマンションの  
管理人は俺だろ？


そんな頻繁に来てちや、  
俺に任せた意味  
ないじゃないか…



そうよー。だから  
ちやんと役に立ってね？  
雇われ管理人さん？



棒読みなのが気になるけど、  
まあいいわ…



はいはい  
分かりましたー



…はい？



じゃ、今日からマンションの  
見回りもお願いね

最近、何かと物騒じゃない？  
変質者も出てるみたいだし…

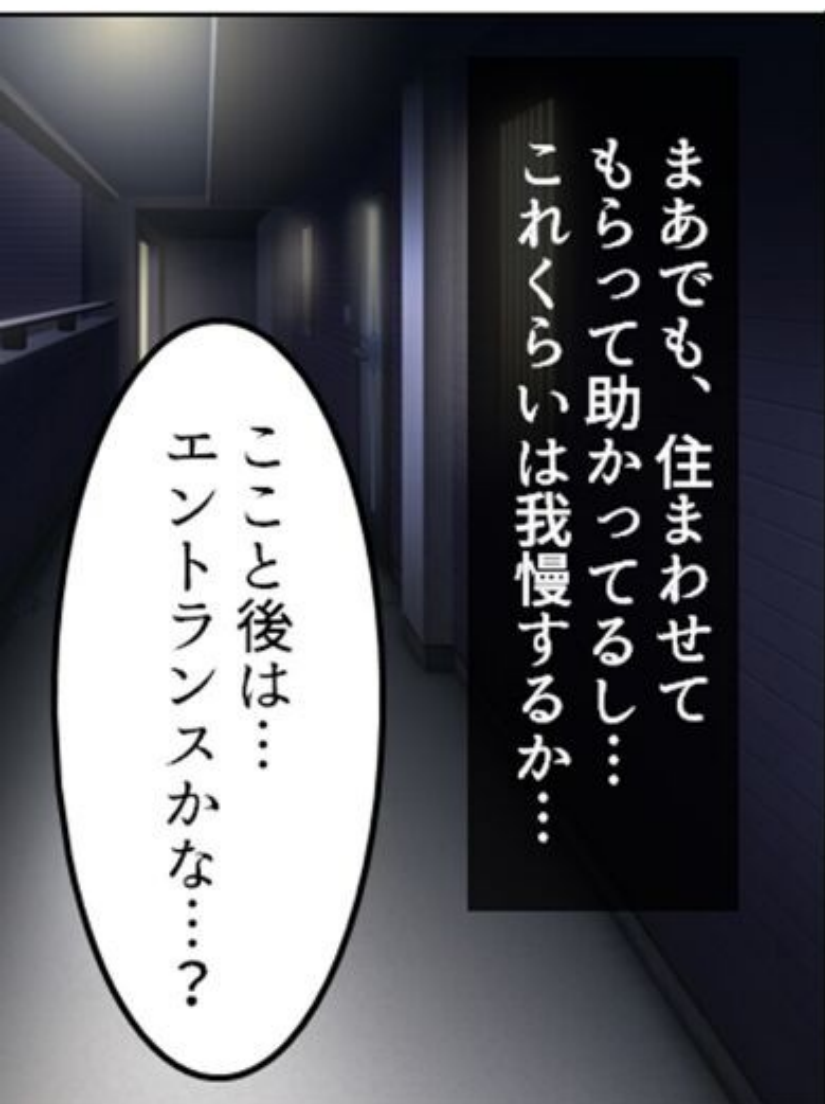
かといって、旦那や私が  
見回りじゃ、心許ないわ



でも、あんたみたいなら  
若くてたくましい男なら  
問題ない！



ってことで、  
よろしくねー  
ぴっちぴちの  
大学生くん？





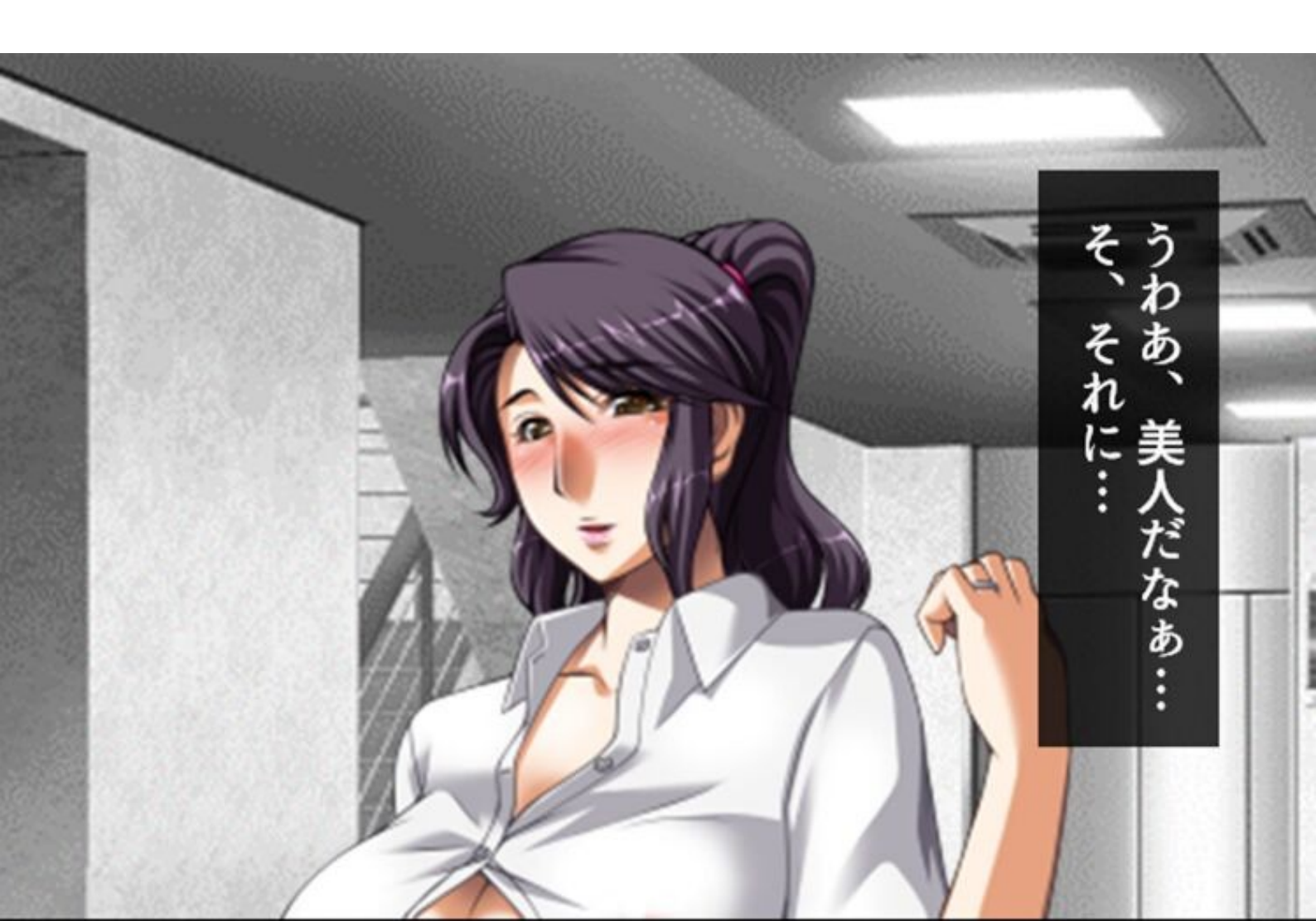
ん？誰かいる…？



は、はい！  
こんばんは！



あら…  
こんばんは

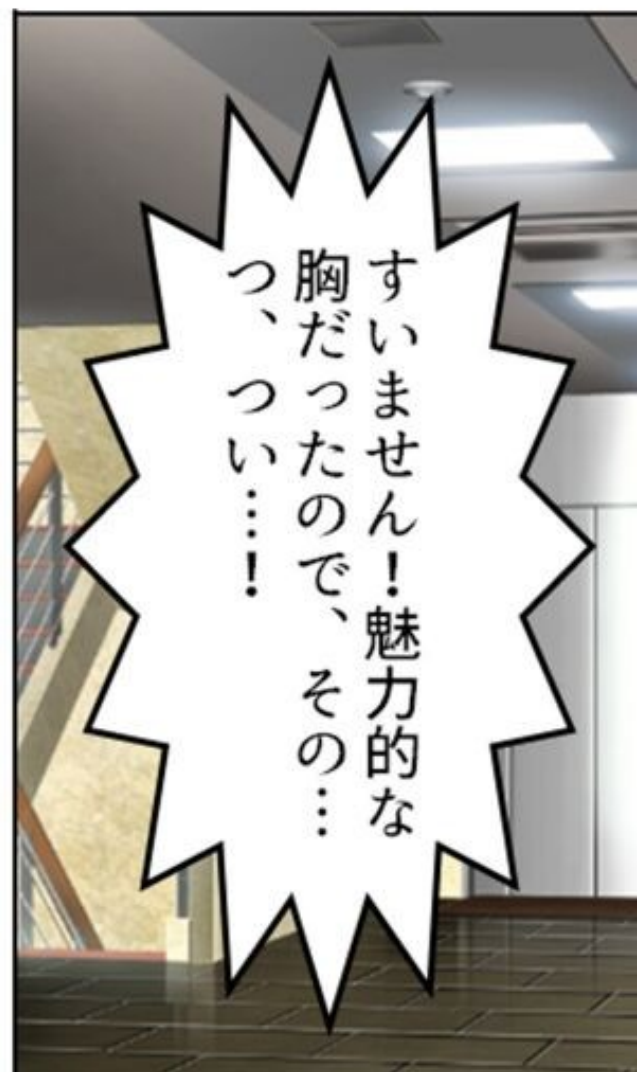


うわあ、美人だなあ…  
そ、それに…



グ  
ク…







えっ!?!  
も、もちろんです!



…私の胸、  
魅力的ですか?



…ありがとう  
そう言われたの  
初めてで、嬉しくて…



あれ?嫌がられてない…?  
むしろ、喜んでるような…






結婚して7年も経つのに  
子供はいない：  
なのに、主人から求められる  
ことはほとんどなくて：



今じゃ、立派なセツ○スレス：  
もう、女としての魅力なんて、  
私にはないわ：



あなたは美人だし、  
とても魅力的だ！  
少なくとも、俺は  
すごく好みですよ！

そんなこと、  
絶対ありません！！

輪島准一です  
このマンションの  
管理人やっています

…ありがとう  
優しいのね、えっと…



じゃあ、若い管理人さん  
そろそろ行くわね…  
おやすみなさい



私は、六〇八号室の  
富士野 栄子



あっ……

そうやって、エレベーターに  
向かう栄子さんの背中には…  
なんだかとても悲しげだった

気丈に振舞ってるけど、本当は  
寂しいに違いない…



きゃあ!?!

ズ  
ダ  
ン  
ッ  
ッ  
!

気付いたら俺は、人がまず通らない踊り場に来ていた…

頭ではまずいと分かっても…  
もう、止まらない!

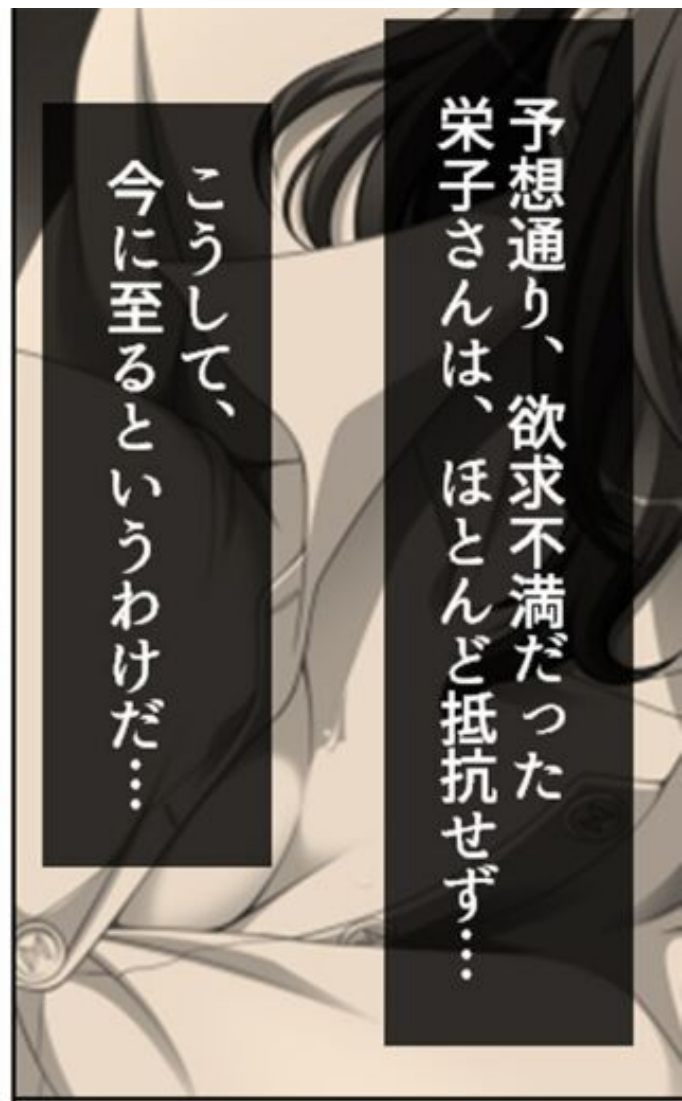
栄子さん!!!

ド  
サ  
ッ

きゃあっ!!!  
じゅ、准一くん!?!



あん…  
准一くん…!!



予想通り、欲求不満だった  
栄子さんは、ほとんど抵抗せず…

こうして、  
今に至るといふわけだ…



栄子さん…  
おっぱい、しゃぶっても  
いいですか…?!

どうしても  
味わいたくて…  
我慢できなくて…

ほっかん  
ほっかん



栄子さんは、一瞬躊躇した  
様子だったけど…



そ、それは…



いいわ…准一くん…

ドキッ!

ああ…  
もう、たまらない！

ド  
サ



栄子さん…  
乳首が、もうこんな  
なってますよ…



ここが、さつきより  
大きくなってる…



准一くんだったって…





続く



第2話  
巨乳妻のパイズリ



栄子さん…



准一くん…  
もっと、気持ちよくなって…





おたのしみ





張りがあって…  
凄く綺麗な  
おっぱいですよ…!!



あっ…!!

ぴくんっ

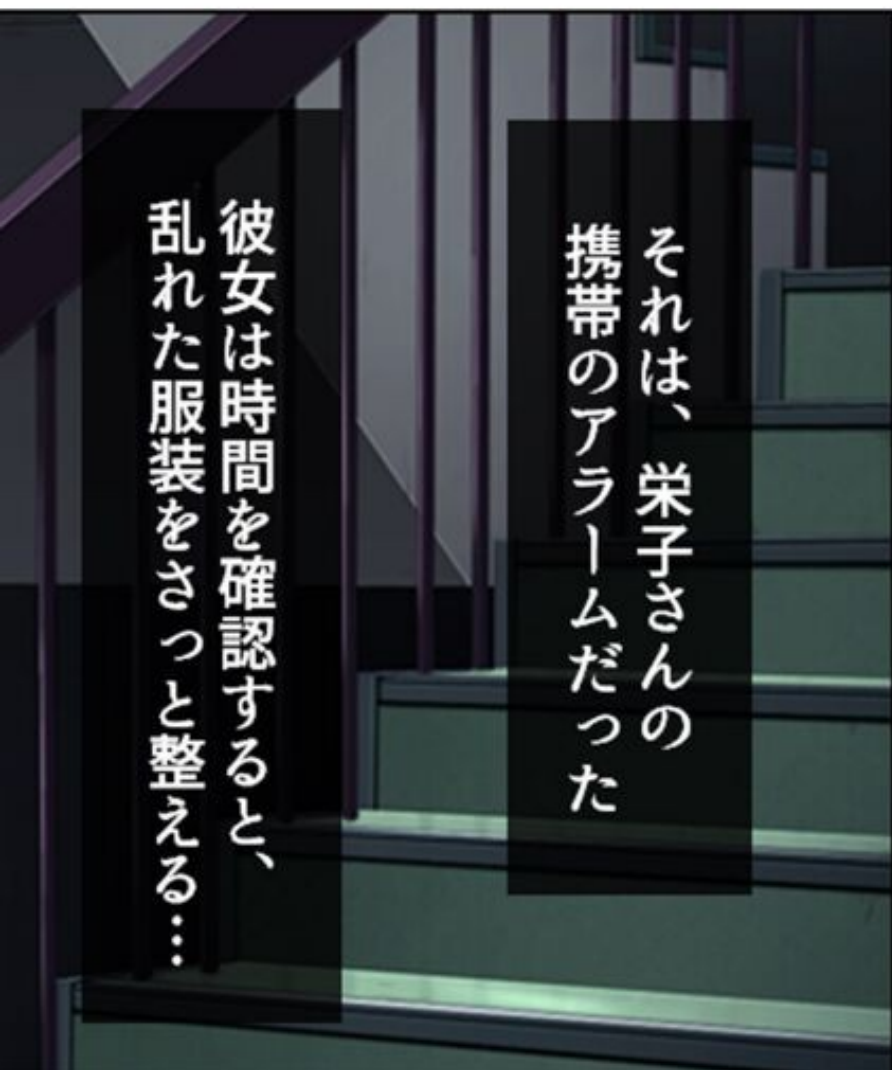


この良さが  
分からないなんて  
もったいない!!

むにゅ









あ…  
そ、そうですよね…



ごめんなさい  
そろそろ、主人が…



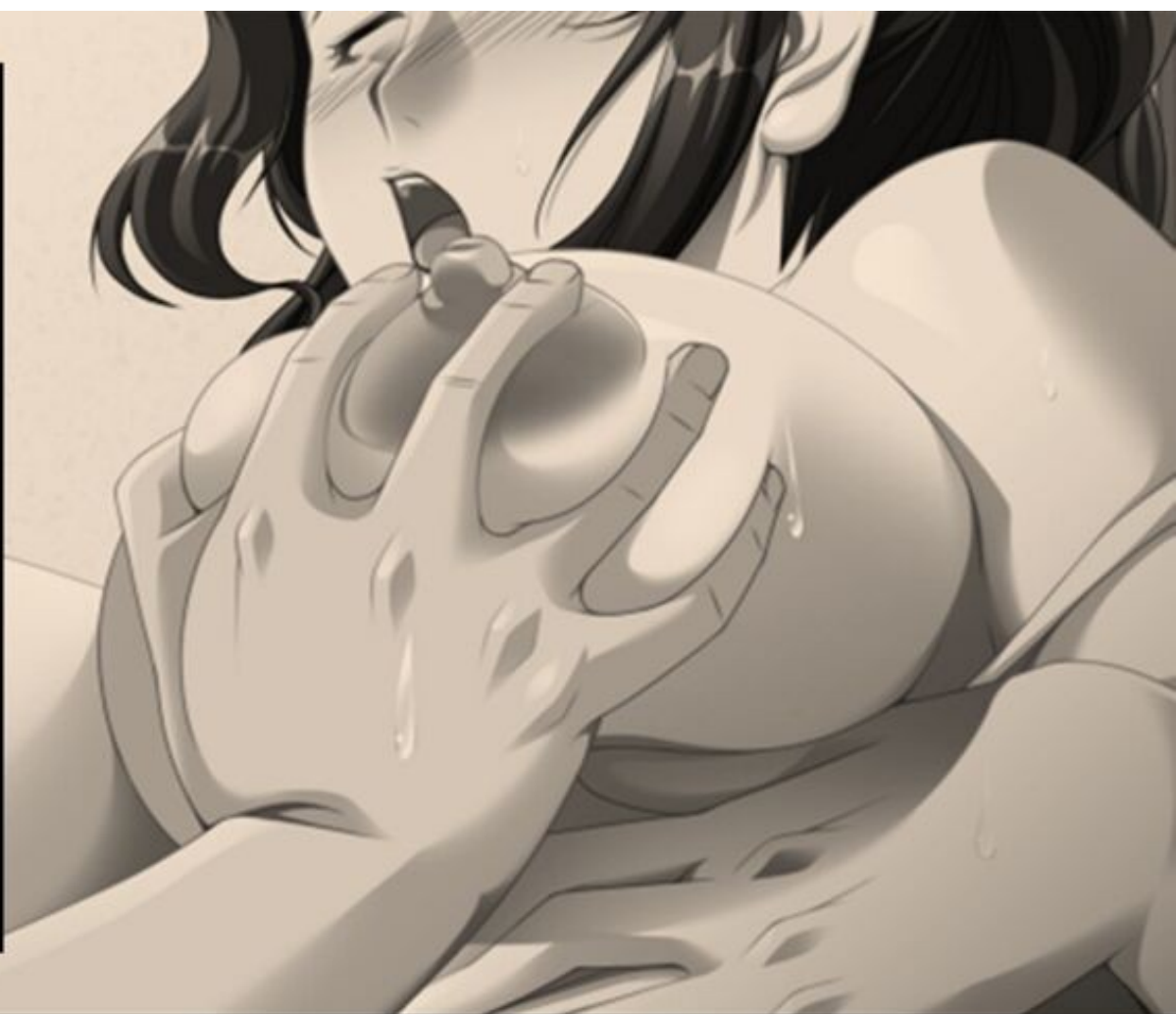
こんなところで  
お預けなんて、  
いくらなんでもあんまりだ！

ぼっまん  
ぼっまん



くそっ！  
なんてタイミングで  
帰ってくるんだ！！

どうせ、この胸に  
貪りつくことなく  
さっさと寝ちまうくせに……!



准一くん…  
あの、明日も  
会えないかしら？






私ばかり気持ち良くなつて…  
こんなの、不公平でしょ？




えっ？  
今なんて…



それに、あんなに体が疼いたの、  
本当に久しぶりなの…

A woman with long, dark purple hair tied in a bun, wearing a white button-down shirt that is open at the chest. She is standing on a staircase with dark green steps and a dark railing. She has a slightly blushing expression. A speech bubble is positioned to her left.

だから…准一君の  
迷惑じゃなければ…

A large, white, starburst-shaped speech bubble is centered on the staircase. The background shows the same staircase and railing as the top panel.

迷惑なんて！  
俺も会いたいです！  
会って…もっと続きを  
楽しみたいです！



じゃあ…  
また明日ね？



うふふ、本当に  
素直なのね



栄子さん…

……



未だに夢のようで、  
実感が湧かない…  
だが、俺は確かに  
あの胸に触れたのだ！



翌日…

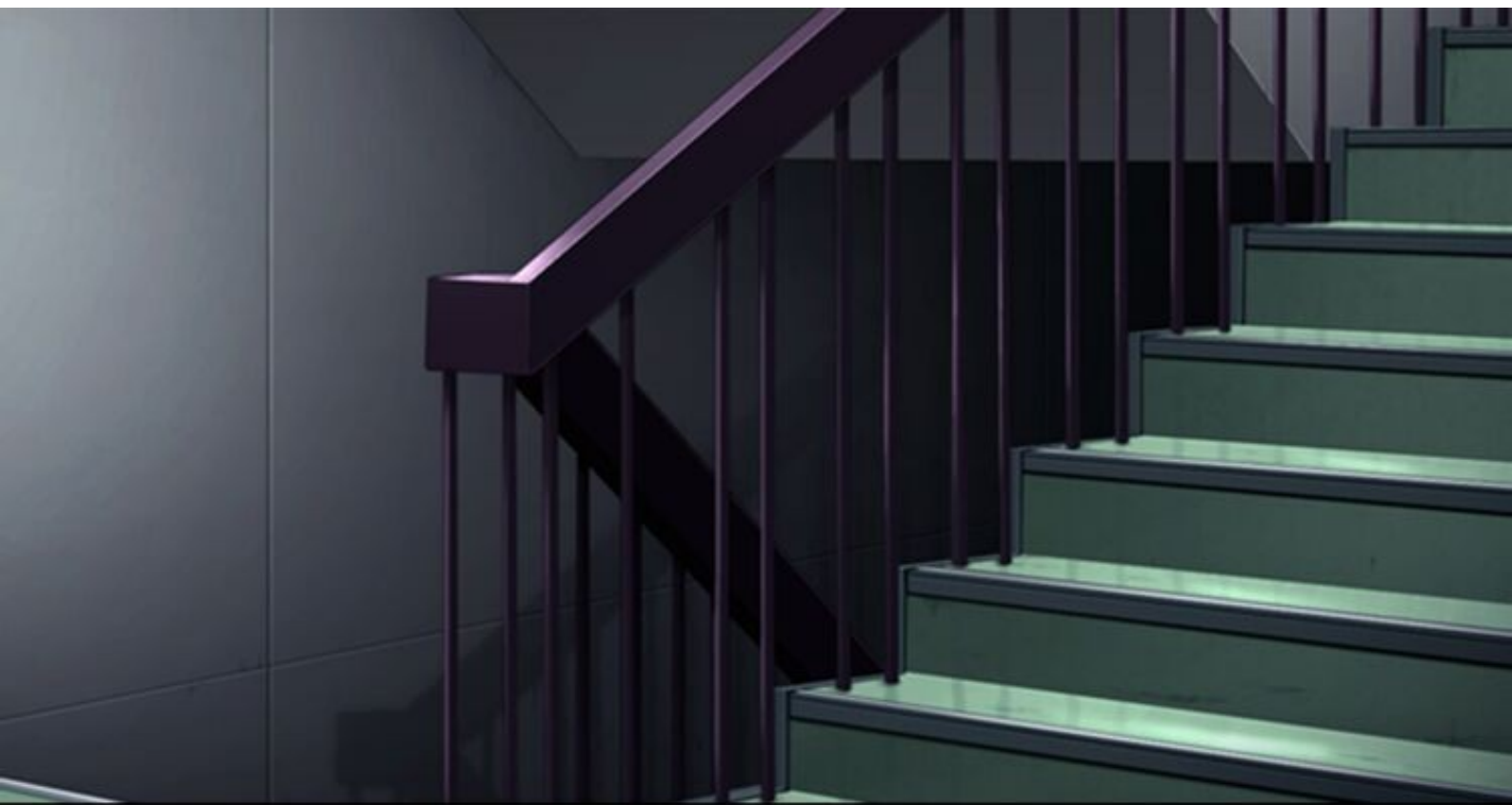
はあ…  
昨日は何回  
抜いたんだろ…



おっと、  
そろそろ時間だ！



ああ、早くまた  
吸い付きたいなあ…





ねえ、今日は…  
私の部屋に来ない？



ふふ、そう言っ  
てくれて嬉しいわ



今日、主人は  
帰りが遅いから



えっ？  
でも…いいんですか？



ね……？  
行きますしろう？



な、なんだか  
落ち着かないな……

さわ

さわ



おまたせ  
准一くん



どうせ、  
脱いでしまうだろう  
からと思っただけけど…



栄子さん…!!  
そ、その恰好は…

どきどき



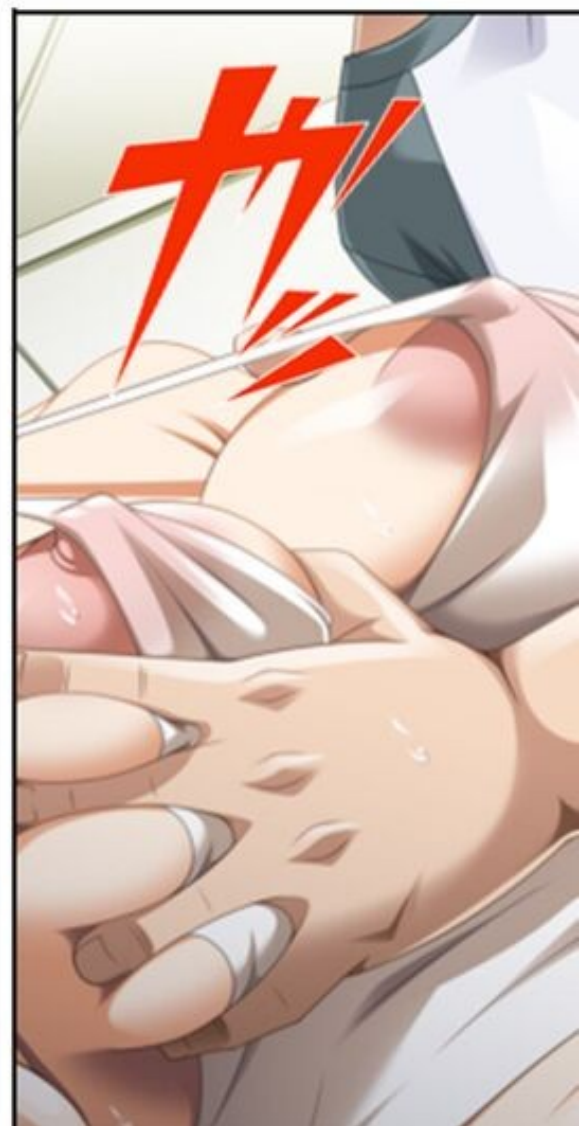
ええ…  
とても、はしたなくて  
エロいです



はしたない…  
かしら？



あんっ！  
もう、准一くんたら…





こんなエロい  
おっぱいしてるのが  
いけないんですよ…



しかも感じ易いなんて、  
最高じゃないですか！

まゆっ  
くりっ



指が沈み込むくらい  
柔らかくて…

もみ  
もみ



じゃあ、今日は…  
もっと気持ち良く  
してあげるわ



本当に、おっぱいが  
好きなのね…

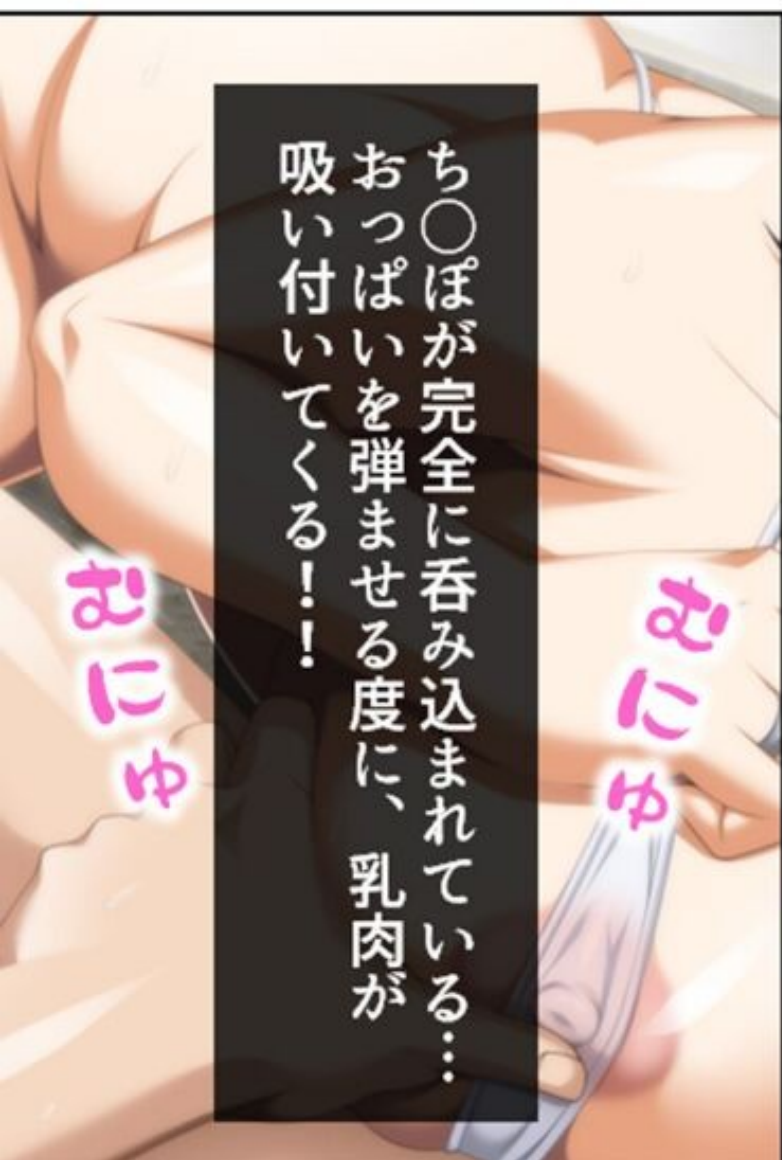




おにゅ

ぷにゅ

どう、  
気持ちいい？



おにゅ

おにゅ

ち○ぽが完全に吞み込まれている……  
おっぱいを弾ませる度に、乳房が  
吸い付いてくる!!!



びくっ  
びくっ  
びくっ

おおおっ……  
こ、これはたまらない！



おち○ちん  
久しぶり…!!

ぴちゅ  
びちゅ



ああん! 准一くんの  
こんなに硬くなってる…

びくっ  
びくんっ



くっ…  
うおおおっ…

ぴちゅ

ぴちゅ

びゅ

びゅ



うっ…  
で、出る…!!  
出ちやいます、栄子さん!



え、栄子さん…!!  
き、気持ち良すぎ…!!



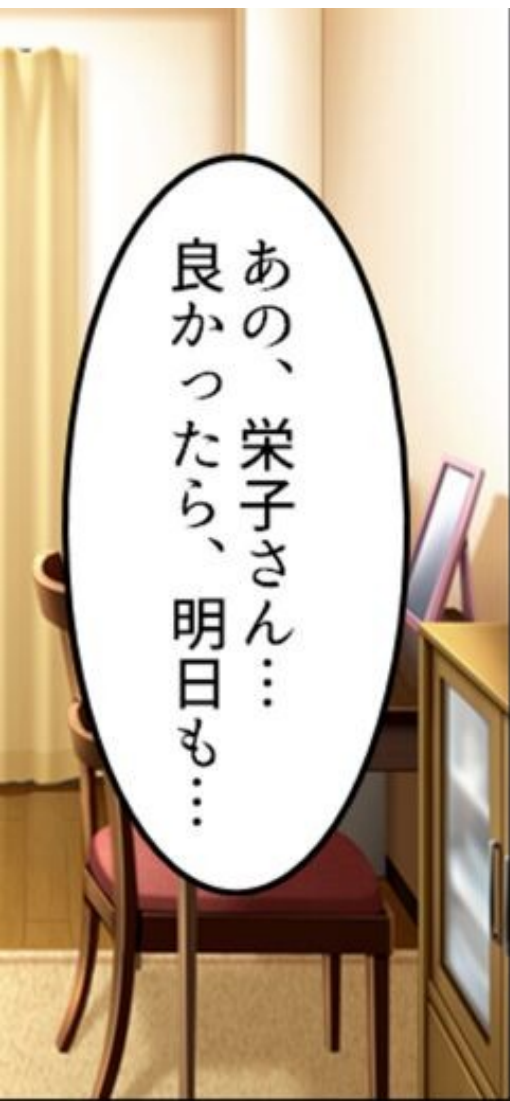
栄子さん…  
イきます…!!



うん、出して…  
准一くんのせーえき  
見せて…







あの、栄子さん…  
良かったら、明日も…



私も…  
こんなの久しぶり…



なら…  
買い物に付き合っ  
てくれないかしら？

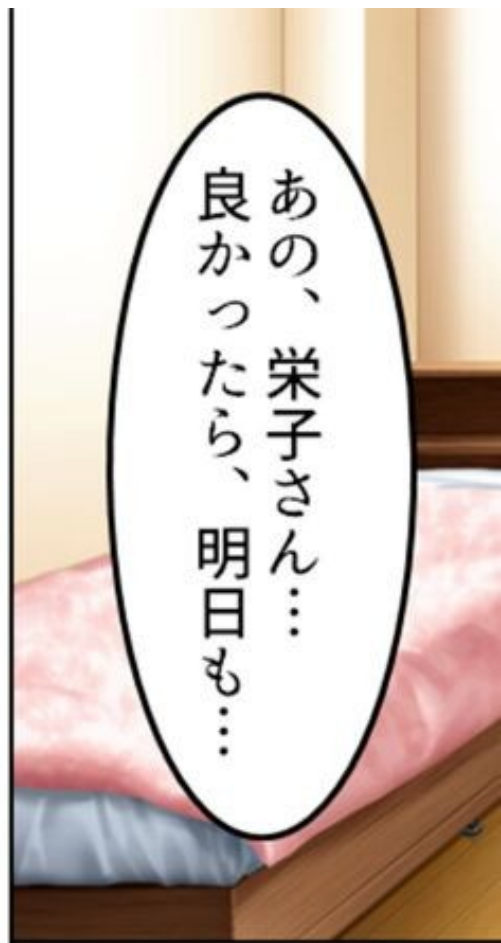




第3話  
人妻の淫らな水着



なら…  
買い物に付き合っ  
てくれないかしら？



あの、栄子さん…  
良かったら、明日も…



水着を買いたいので…  
准一くん、一緒に  
選んで？



はい！  
喜んで！



水着かあ…  
できれば、エロいのを  
着てほしいな…



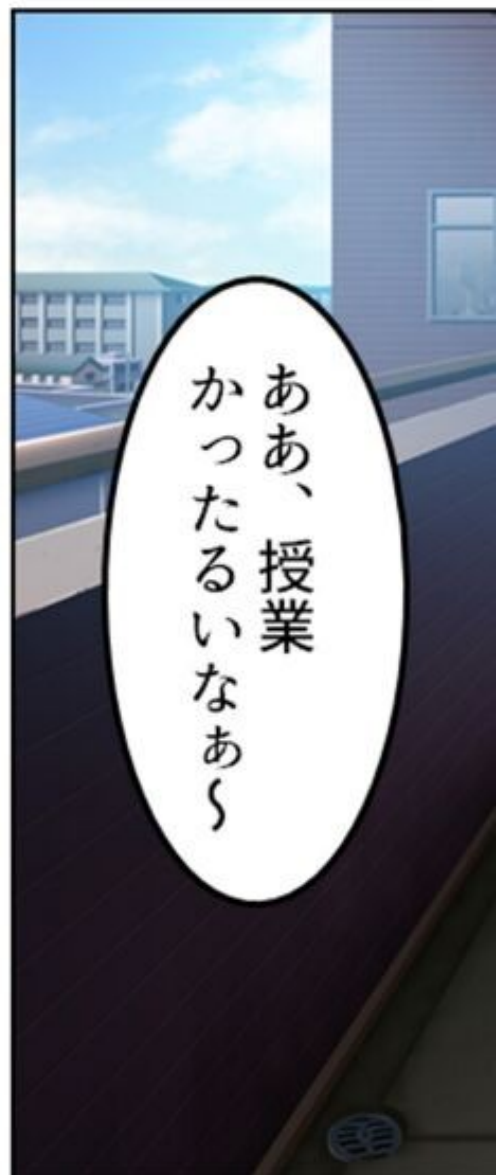
ふわあ…  
朝か…



チロリン  
チロリン…




あ…




ああ、授業  
かったるいなあ〜






あ…  
お、おはよう  
ございます…

栄子さんの態度は、  
他人行儀で素っ気無い  
ものだった




そりゃそうだ…  
俺達是不倫の関係。  
外では、あくまで他人として  
振舞わなくてはならない…

でも、足早に去っていく  
彼女の背中に、俺は  
不安を感じていた。

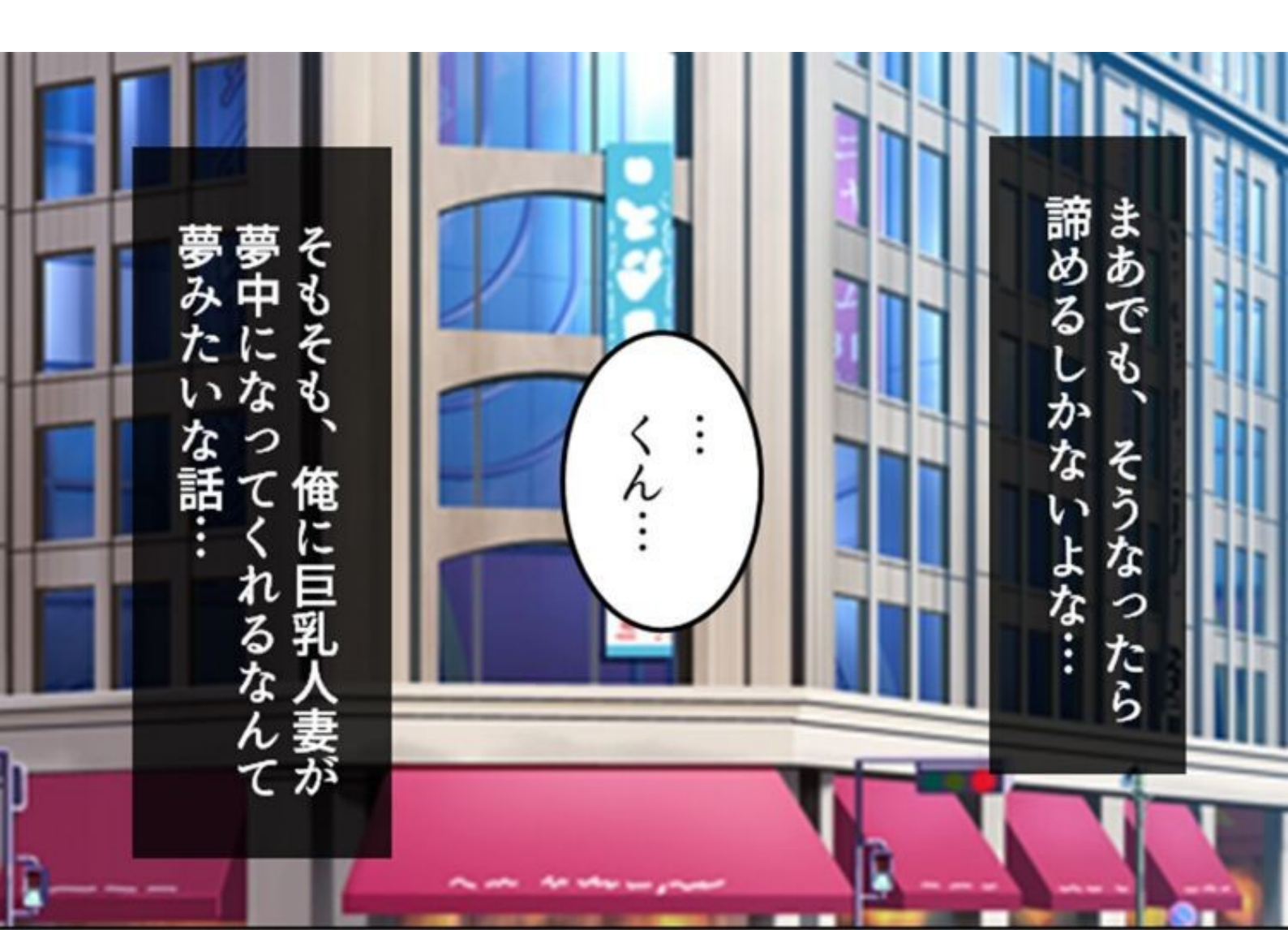


ひよつとしたら、栄子さんは  
このまま…俺から離れて  
しまうんじゃないだろうか？

何もなかったことにして…  
元の生活に、  
戻りたがってるんじゃないか？



こうやって待ってても  
来なかったりして…  
はは…



まあでも、そうなたら  
諦めるしかないよな…


…  
くん…

そもそも、俺に巨乳人妻が  
夢中になってくれるなんて  
夢みたいな話…




准一くん!

わっ!  
え、栄子さん…!!?



もう！呼んでも返事がないから、無視されたかと思っただじゃない：



栄子さんのこと、無視するわけないじゃないですか！



…  
栄子さん…？




でも…



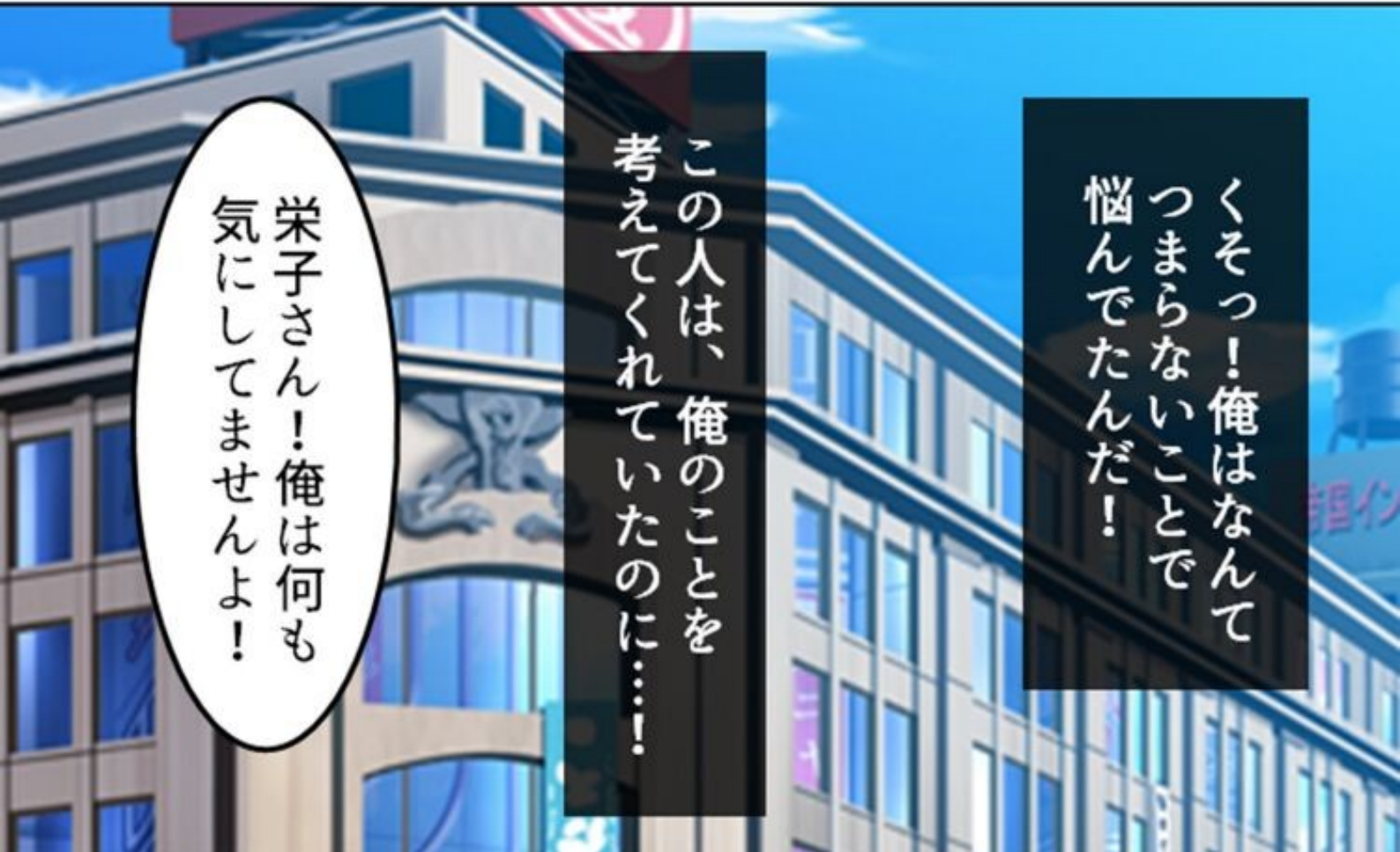
あんな、素っ気無い  
態度を取ってしまった…



あの…今朝は  
ごめんなさい…



本当は、ちゃんと話したかった  
でも、もし噂になつたりしたら  
あなたに迷惑が掛かるから…



栄子さん！俺は何も  
気にしてませんよ！

この人は、俺のことを  
考えてくれていたのに…！！

くそっ！俺はなんて  
つまらないことで  
悩んでたんだ！





まあ…  
いっぱいあるわね!



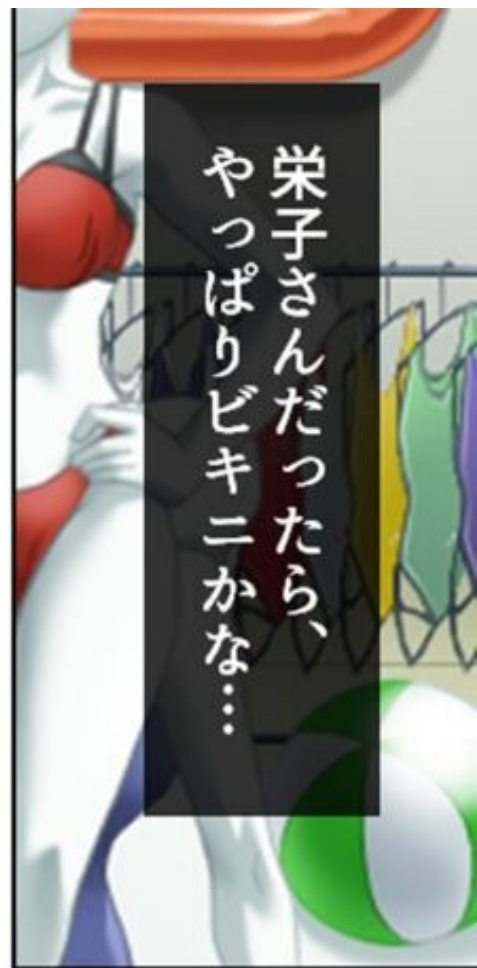
そうですねえ…



准一くんは、どれが  
良いと思う?



いや、これも  
捨てがたいかも……!



栄子さんだったら、  
やっぱりビキニかな……



ん  
どれどれ……



あ、これなんか  
良いかしら……?



今はダラメ  
後のお楽しみよ



今ではこうして、  
俺の横で幸せそうにして  
くれているんだ……

最初に会った時は、  
とても儂げな印象だったけど……



栄子さんは、子供のよう  
に  
はしゃいで笑っている



じゃあ、買ってってくるから  
待っててね！

どんな水着を  
買ったんだろうか…

ズカ  
ズカ


着替えるから待っててと  
言われたけど…



准一くん：  
ちよつと来てえ…

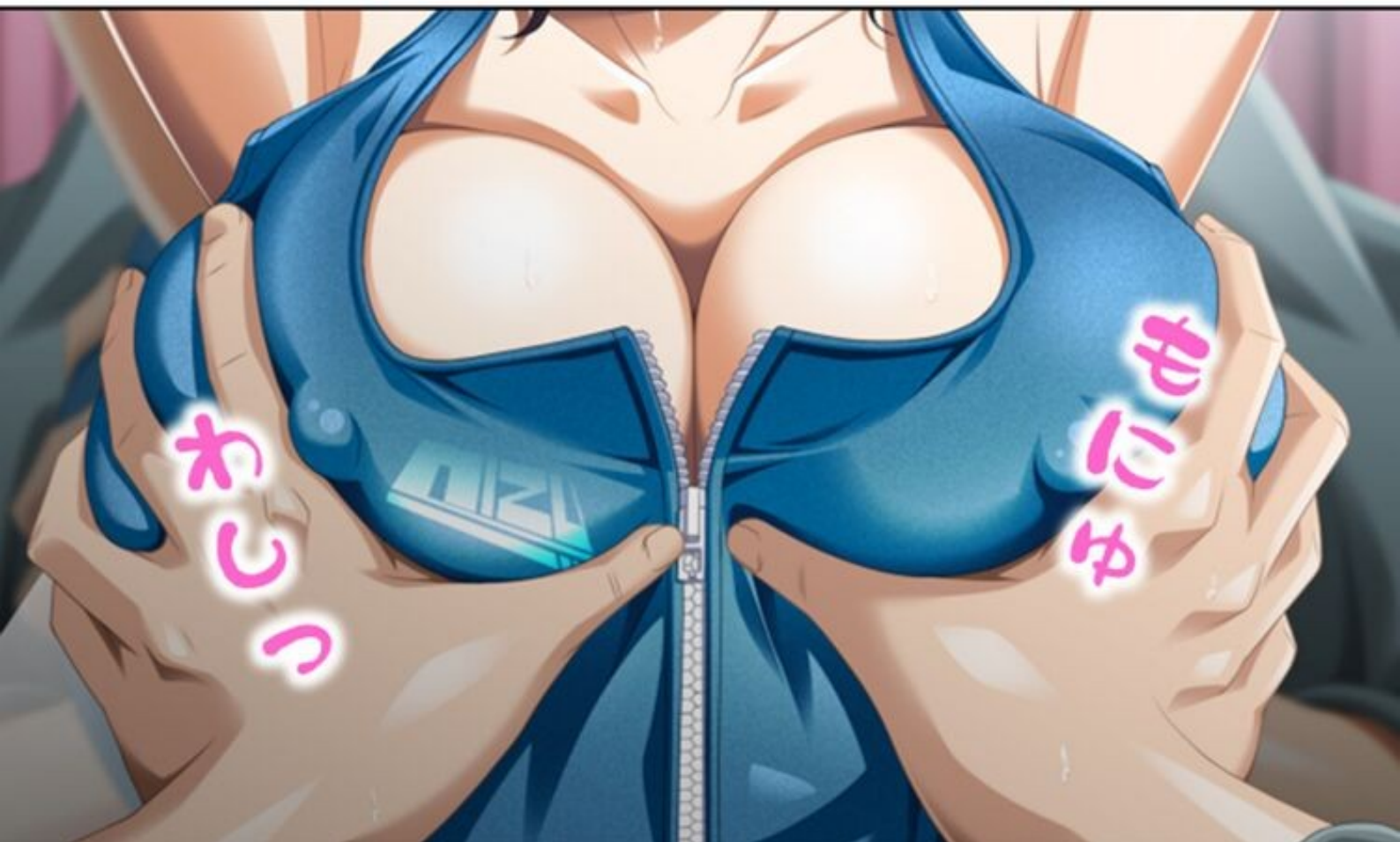


栄子さん？  
どうかしたんですか？



脱衣所のドアを開け…  
鏡の前に立っていたのは…

競泳水着を着た  
栄子さんだった…



あ、だ、ダメよ  
いきなり…!!

そんなこと言って、  
本当は早くこうして  
ほしかったんでしょ？

おにゅ

おにゅ





はあっ

はあ

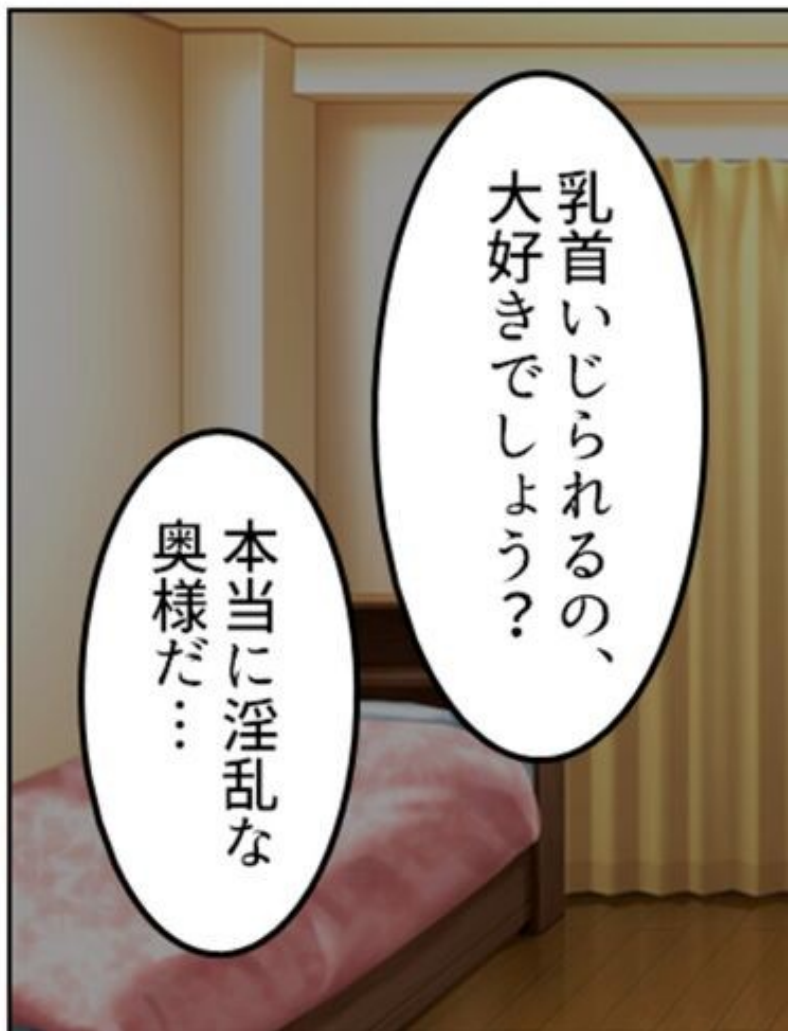
ち、ちがつっ!



淫乱なんかじゃ…  
あつ…



もう…  
いじわるなんだから!



乳首いじられるの、  
大好きでしょう？

本当に淫乱な  
奥様だ…



えいっ!

どっゅっ

えっ  
…?

おっ

おっ



そんなイケナイこと  
言う悪い子には…



おしおきしなきやね？

ぐにゅっ

ぐにゅっ



ぐにゅっ

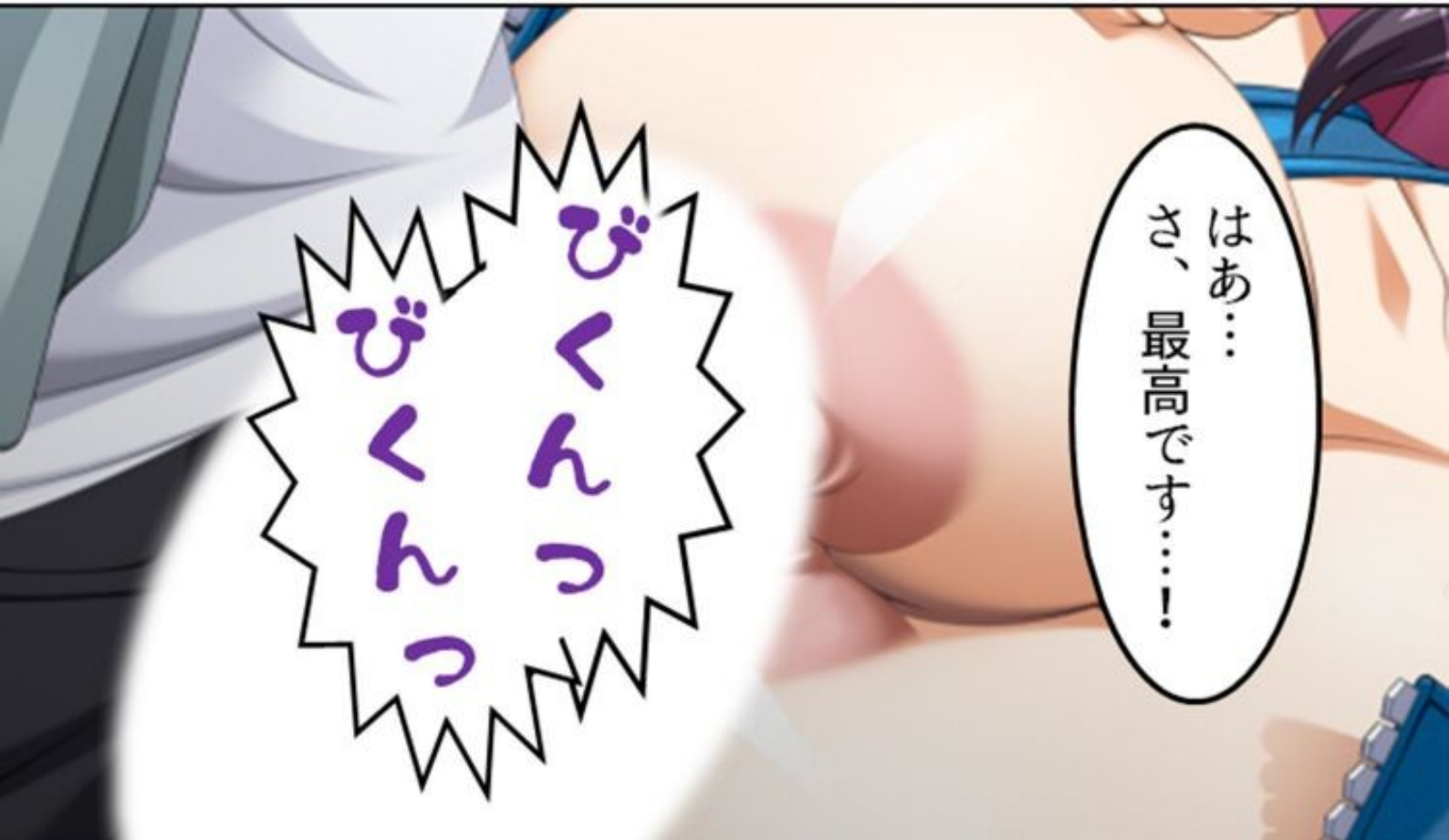
どう？大好きな  
胸の感触は…？



くっ…  
うおおおっ…!!

おにゅ

ぷにゅ



びくんっ  
びくんっ

はあ…  
さ、最高です…!!



あ、凄い…  
ビクビクしてる…



ああっ…  
もう出ます…!!  
栄子さん…!!



気持ち良いなら  
遠慮なくイツちやって?

ぢゅぢゅ  
ぢゅぢゅ





はあ…はあ…  
栄子さん…  
今度は俺の番ですよ…!!




んむっ…  
准一くんの、  
美味しい…!!



えっ？

続く



第4話  
淫らに貪る



はあ…はあ…  
栄子さん…  
今度は俺の番ですよ…!!



んむっ…  
准一くんの、  
美味しい…!!

ぱろ

ぱろ



えっ？

ドサッ



栄子さん、ここ  
すごいヌルヌルに  
なってますよ

くちゅ

ドサッ  
くちゅ



キヤッ！  
じゅ、准一くん！？



汚くないですよ  
すごく綺麗です…



あ、触っちゃダメ…!!  
まだお風呂入ってないの…  
汚いからっ…!!



栄子さんも、  
入れてほしいでしょ？



俺…栄子さんの  
オマ○コに入りたいです

淫乱なオマ○コが、  
ぐちゅぐちゅにされたいって  
言ってますよ？

ぐちゅ

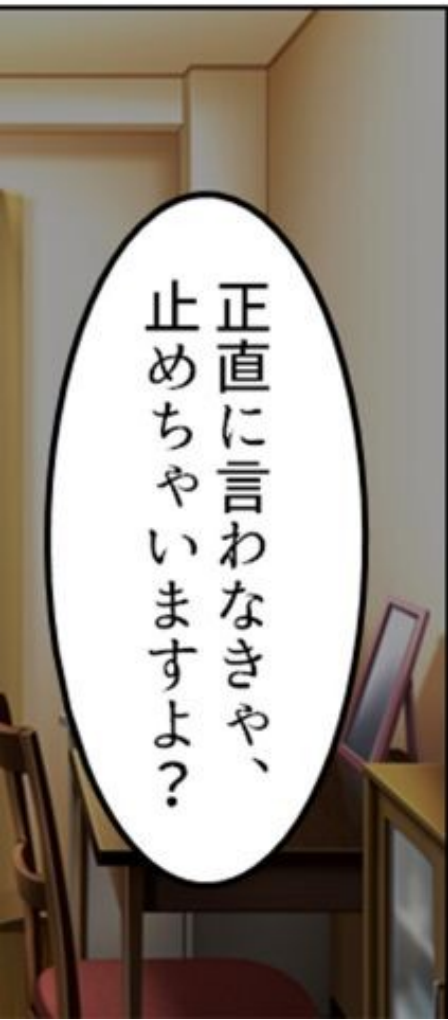
ぐちゅ



淫乱じゃないですか  
大学生に乳首舐められて  
感じたり…



あんっ…!!  
い、淫乱じゃない…!!



正直に言わなきや、  
止めちゃいますよ？



パイズリして  
美味しそうに  
精液飲んでた  
くせに…



ちゆく  
ぐさゆ

じゃあ、ちゃんと  
正直に…言っ  
てくださいね？



あ…  
い、いや！  
止めないで…！！



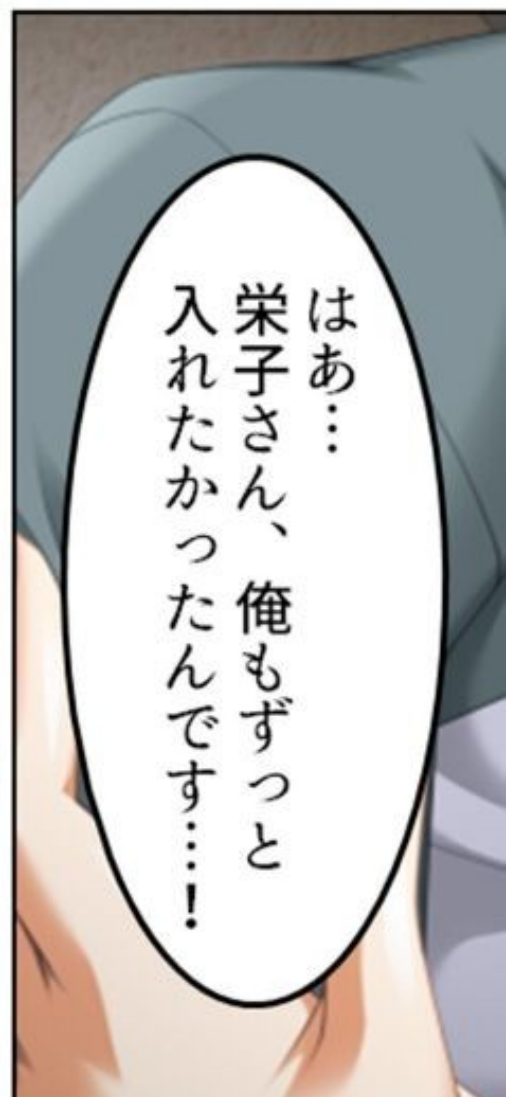
わ、私は…  
淫乱な人妻です…！！



准一くんの  
オチ○チン、早く  
入れてください…!!



こうやって、おっぱい  
ペロペロ舐めながら…



はあ…  
栄子さん、俺もずっと  
入れたかったんです…!!

俺のち○ぽを  
奥までブチ込みたかった  
んです！

ずぶ  
ずぶ  
ずぶ



栄子さんの蜜穴が  
広がって、俺のち○ぽを  
飲み込んでいく…

肉壁が絡み付いて、  
締め付けて…  
メチャクチャ気持ちいい！



おっぱいも  
捨てがたいけど…  
オマ○コがこんなに  
気持ちいいなんて…！



栄子さん…  
ぬるぬるで  
気持ちいいですよ…！



はあ  
はあ…  
はあん、准一くんの  
童貞チ○ポが、  
入っちゃったあ…！



こうやって  
吸うとどうかな……？



はんっ！  
あっ……



締めがきつく  
なりましたね……



ああんっ！



あんっ、ダメえ！  
赤ちゃんみたい  
に吸わないでえ！



いひいっ！  
引っ張っちやいやあ！



じゃあ、こっちやって！

びいっ  
びいっ  
びいっ




胸もオマ○コも  
感じちやって、  
イヤらしいですね……!




引っ張られて  
喜んでるじゃないですか



あ、あ……  
ダメ、イツちやうう……!



おっぱいとオマ○コ  
どっちも気持ち良すぎて  
イツちやうのお……!!



栄子さん!  
中に、出しますよ……!!

あんっ! ああっ!!!  
出して、准一くんの…  
中に出してえ!!!



ああああんっ!!!

ムネがムネが  
ムネがムネが







俺は、栄子さんが好きで  
こうしてるんですから！



ねえ、今度は…  
どんな服を着てほしい？



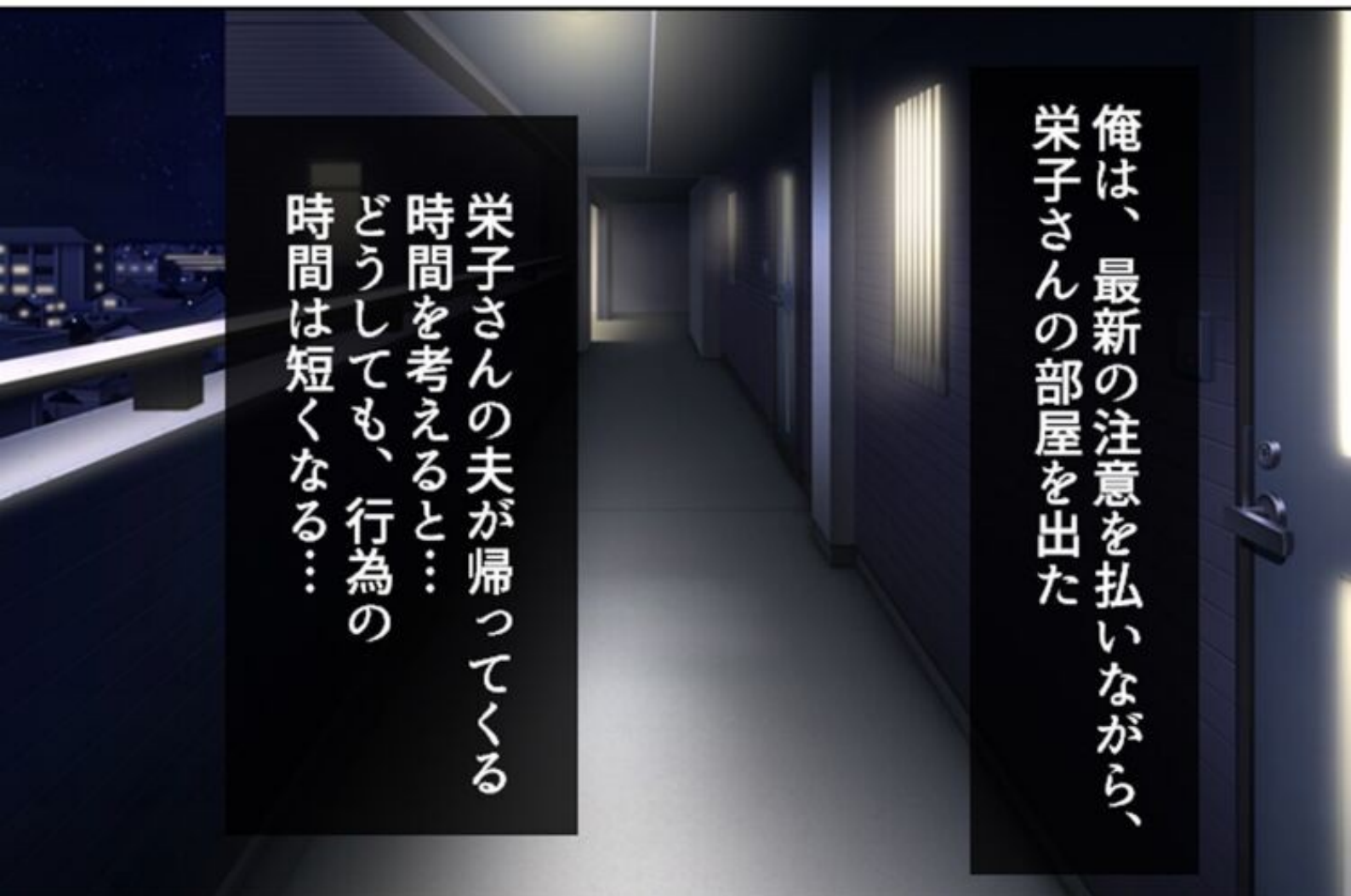
…うん、ありがとう  
やっぱり素直で、  
優しい子ね



もう、イケナイ子  
なんだから…



今日より、もっと  
エロいのがいいです！



俺は、最新の注意を払いながら、  
栄子さんの部屋を出た

栄子さんの夫が帰ってくる  
時間を考えると…  
どうしても、行為の  
時間は短くなる…

それに、これからも頻繁に  
部屋を訪れるというわけにも  
いかない

どこで目撃されて  
噂になるか  
分からないからだ…

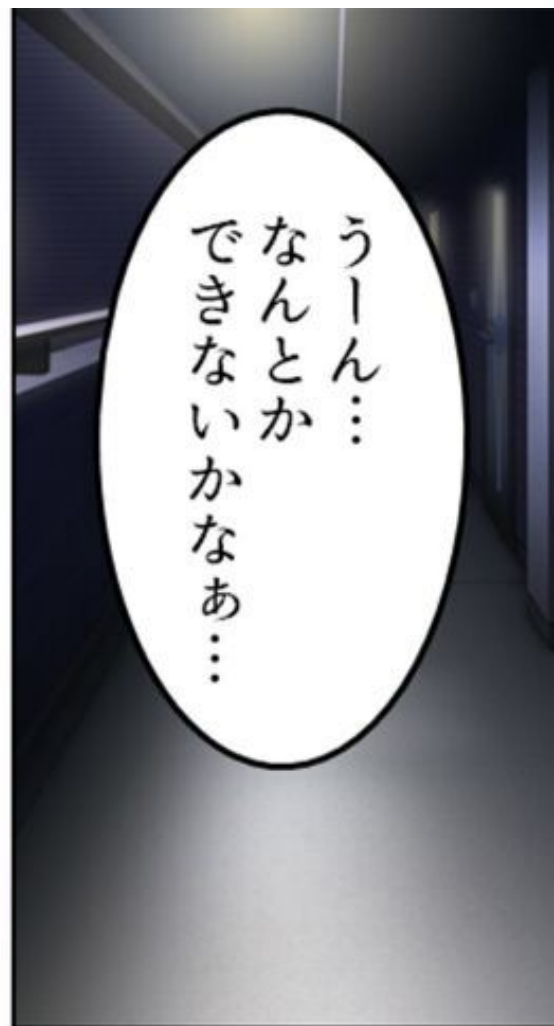
もしそれで、栄子さんの夫に  
バレでもしたら…





ただいまー

ガブ  
チヤッ



うーん…  
なんとか  
できないかなあ…



おつかえりー  
またもや  
遅かったわねえ



なあんだ  
つまんないの




…もう、  
ツッコミませんよ…




あらそう。さすが甥…  
と言いたいところだけど…




叔母さんの  
神出鬼没ぶりは、  
もう十分理解して  
ますから…



あんだ、私が何も気付いて  
ないとも思ってたの？



六〇八号室の  
富士野 栄子さん…



…えっ？

ドクン!



ど、  
どうすればいいんだ……!?

そん、な……!



どういうことか、  
正直に  
白状なさい!

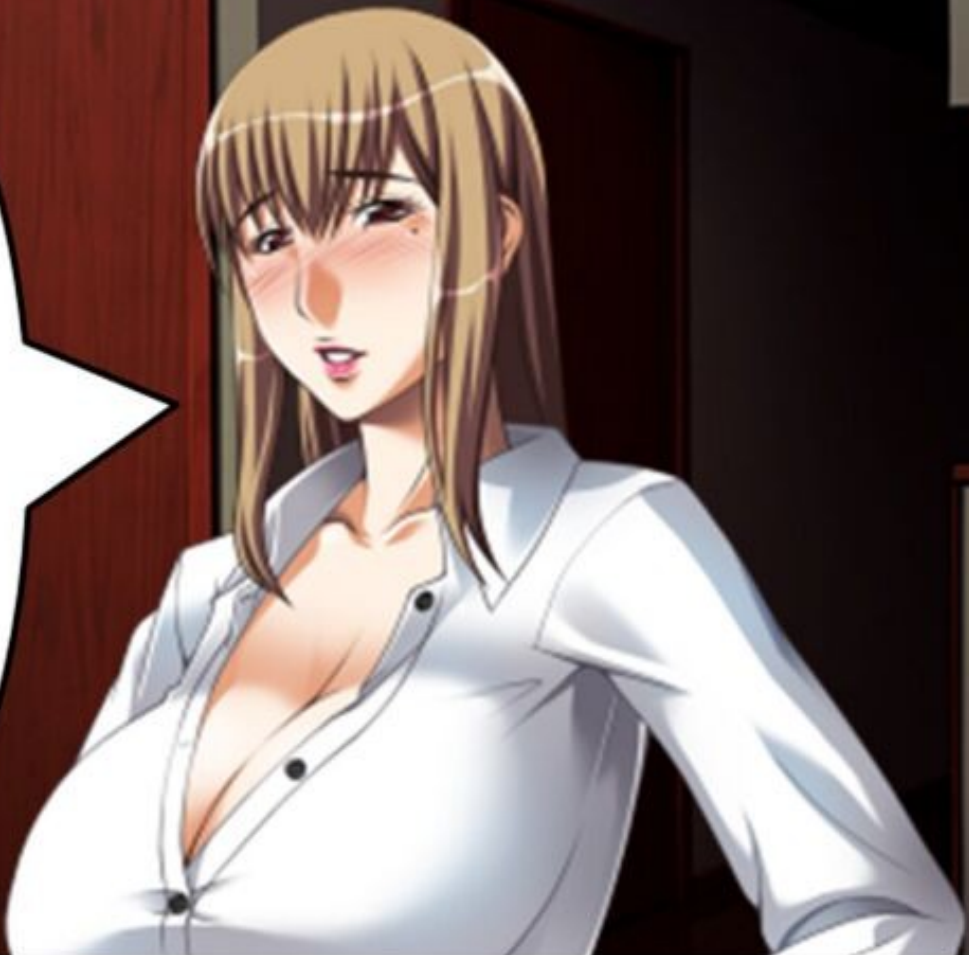


これは……栄子さんの夫に  
バレるより最悪だぞ……!

続く



第5話  
捨てる神あれば拾う神あり？




あんだ、私が何も気付いて  
ないとも思ってたの？

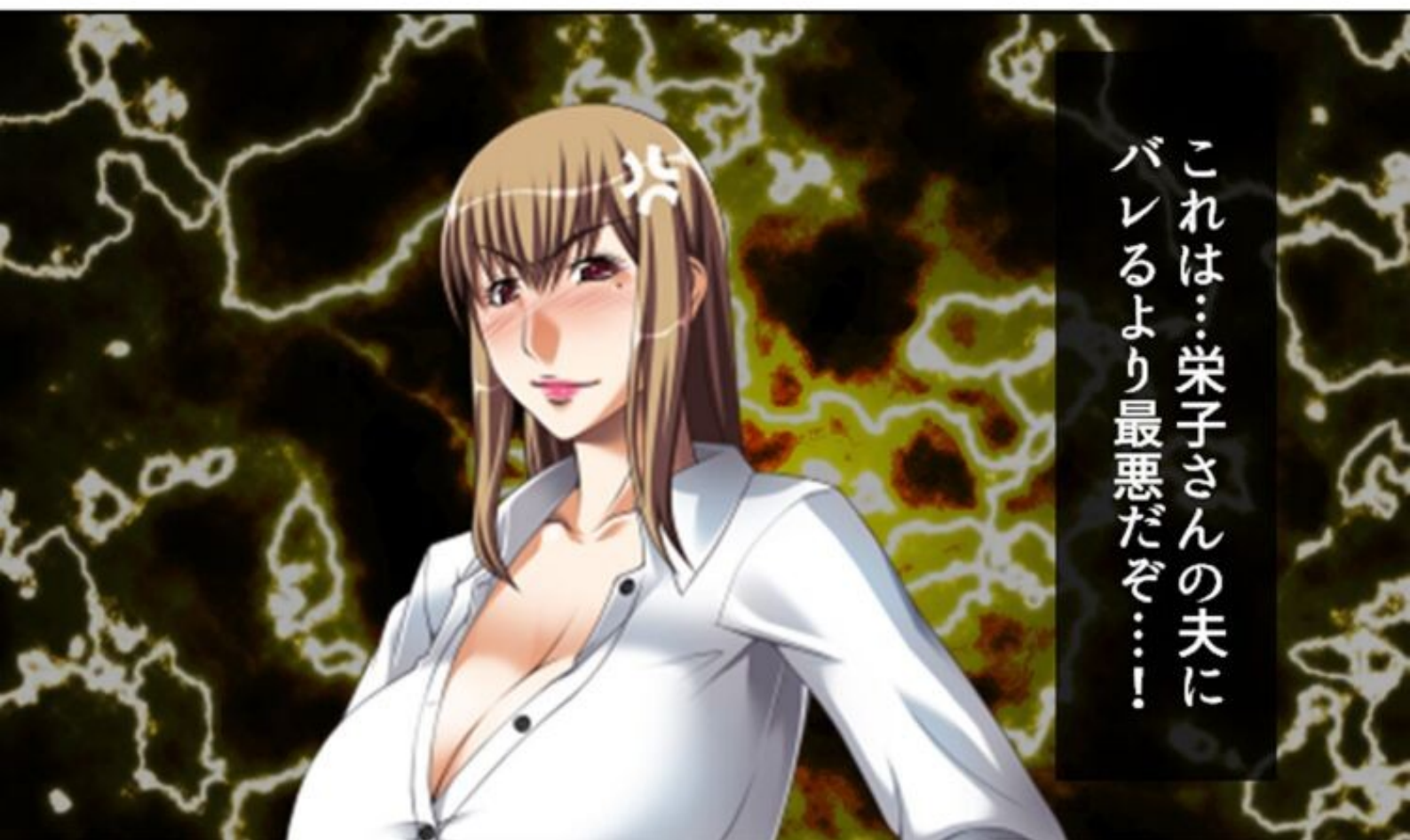


六〇八号室の  
富士野 栄子さん…

ドカッ!

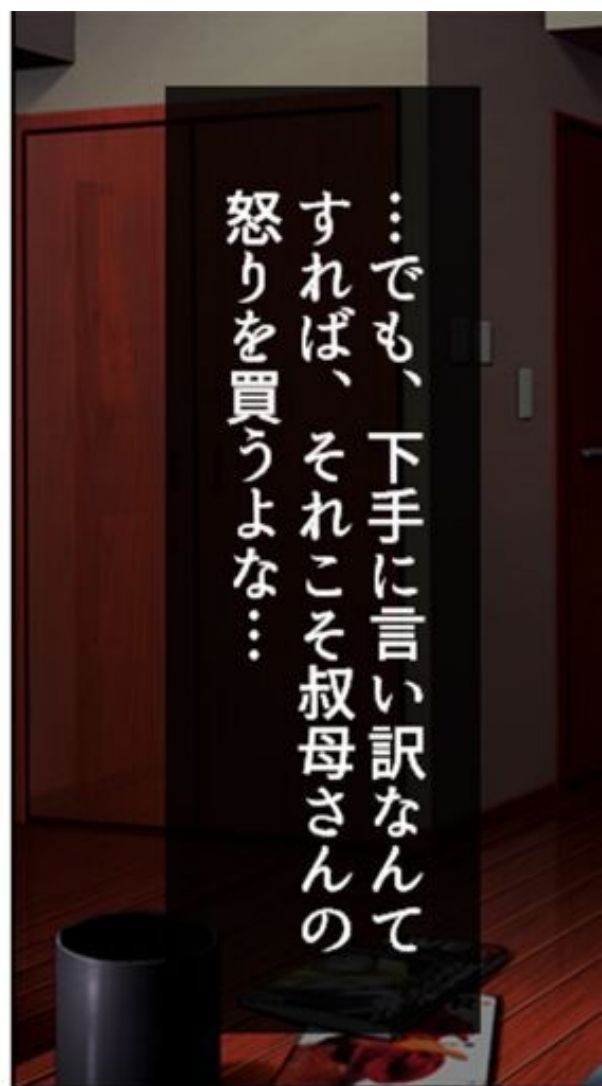


…えっ？

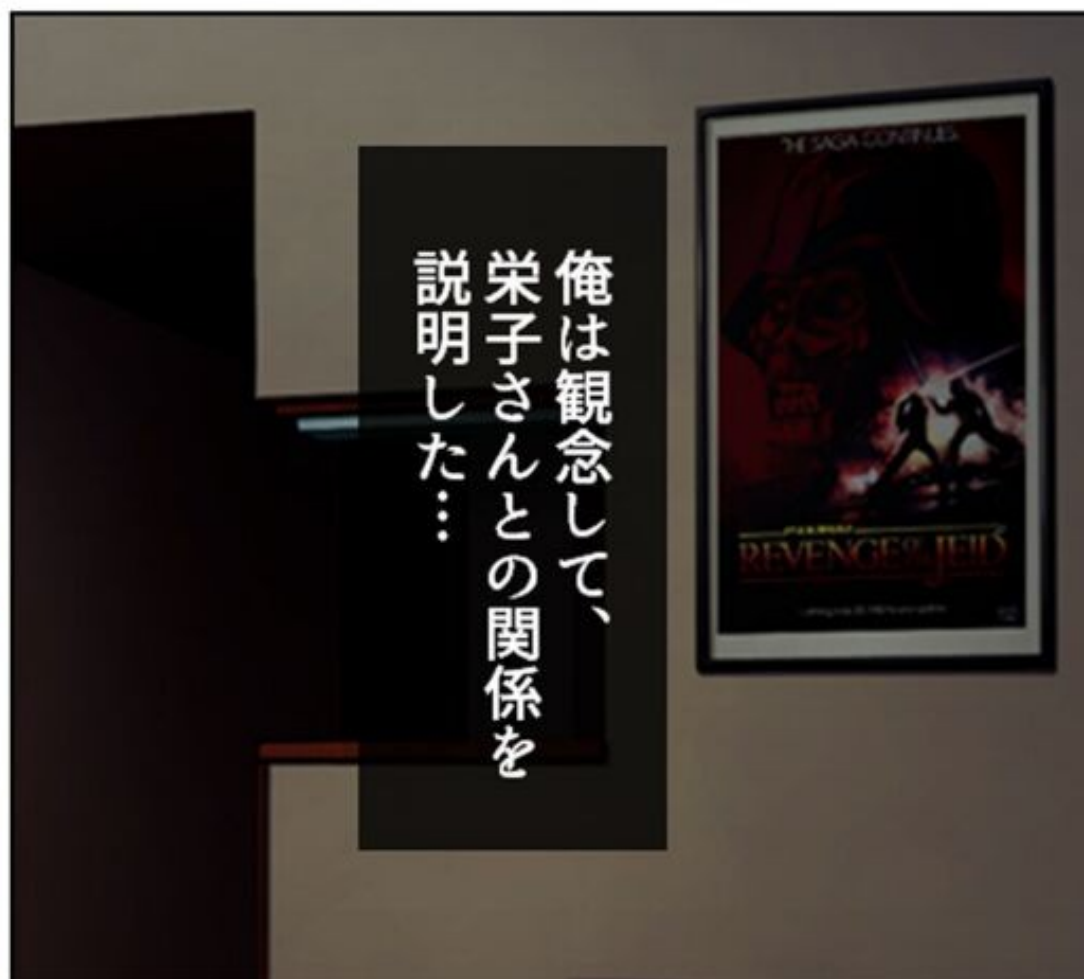




…分かった  
正直に話すよ…



…でも、下手に言い訳なんて  
すれば、それこそ叔母さんの  
怒りを買うよな…



俺は観念して、  
栄子さんとの関係を  
説明した…





はあ…もつと  
賢い子だと  
思ったんだけどねえ…



そ、それは違  
います!!!



ねえ、あんたは栄子さんの  
こと、ただの性欲の捌け口  
として見てるの？



それでも！  
あの人が魅力的だと  
思ったのは本当ですよ！



まあ…あの巨乳に  
惹かれたのは、  
否定しないですけど…



不倫の関係で言えること？  
…って、人としては  
言いたいとこだけど…  
私の正直な感想を言うわ



よくやった



栄子さんの旦那って、  
悪い人ではないん  
だけどねえ…



…えっ？

頭の固い、仕事一筋の  
真面目人間って感じで…  
妻の気持ちなんて  
ガン無視なのよ



だから同じ人妻として、  
栄子さんは見えて  
可哀想だったのよね









本当は旦那と  
行きたかったんだけど  
都合悪くなっちゃって…



ってことで、  
栄子さんと  
行ってきなさい



そのぶら下げてるもの、  
引きちぎるわよ？



…でももし、彼女の  
気持ちを踏みにじる  
ようなことしたら…



…ま、まあ、  
何はともあれ…!!

き、気を  
付けます…!!

がく

がく…

栄子さんと、  
2人きりでホテル……!!



ふふ…  
楽しみだ!!

えっ?  
ホテルの宿泊券?





旦那さん、3日後から  
出張だって  
言っていましたよね？



はい、良かったら  
一緒に行きませんか？



喜んでくれてる  
みたいだ！  
良かったあ…



ええ、是非！！

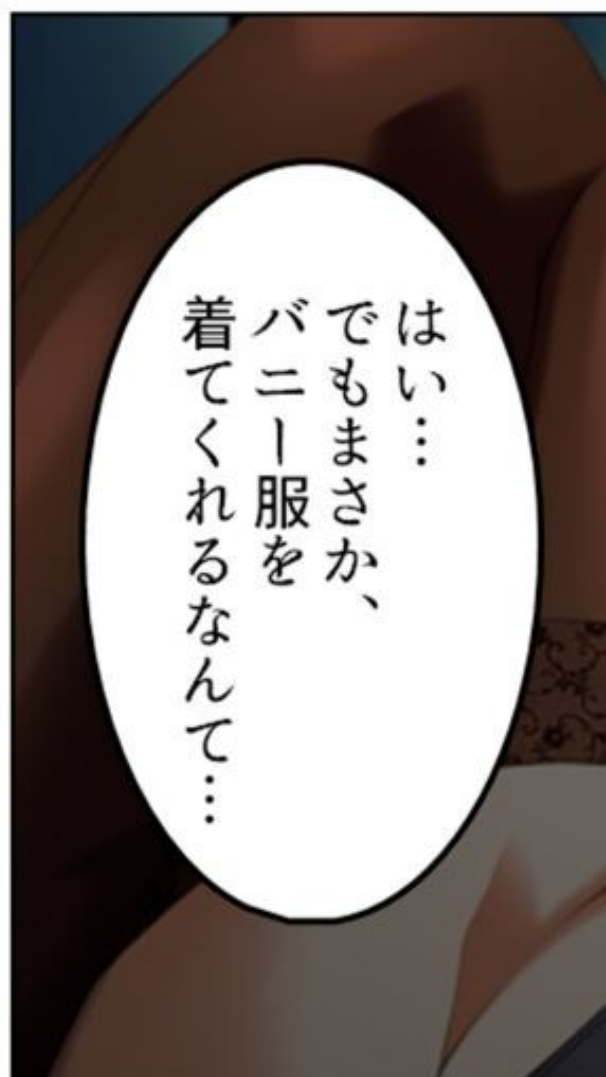





うふふ…  
どう、似合う？



こんな恰好、  
准一くんの前でしか…  
しないんだからね？




はい…  
でもまさか、  
バニー服を  
着てくれるなんて…



すごく似合ってますよ  
栄子さん…

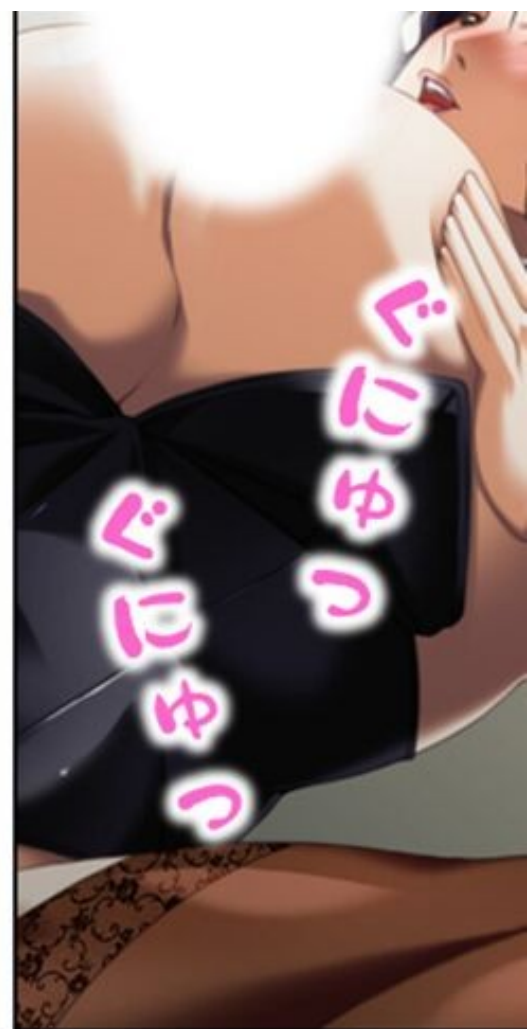
ぼっまん  
ぼっまん



もうこんなにしちやつたの…?  
じゃあ、しごいてあげないとね?



はあっ……!  
栄子さん、そ、そんな  
オッパイを  
揺さぶったら……!



准一くん、  
好きなほうを選んで？



ふふ、もう汁が  
出てきちやってる…



パイズリでイキたい？

ぐちゅ

ぶにゅっ



それとも...  
こっち？



もう、本当に  
イケナイ子…



ああ…どっちも！  
どっちでも  
イきたいです！



じゃあ、まずは  
こっちなね？

ぐちゅっ

ぐにゅ

ぐにゅ

あぁっ！  
も、もう無理です！  
栄子さんっ…！！

あぁっ  
あぁっ  
あぁっ

ああん、もっと、  
もっと出してえ！

あぁっ  
あぁっ  
あぁっ

あぁっ  
あぁっ  
あぁっ



ねえ、准一くん？  
聞いている？

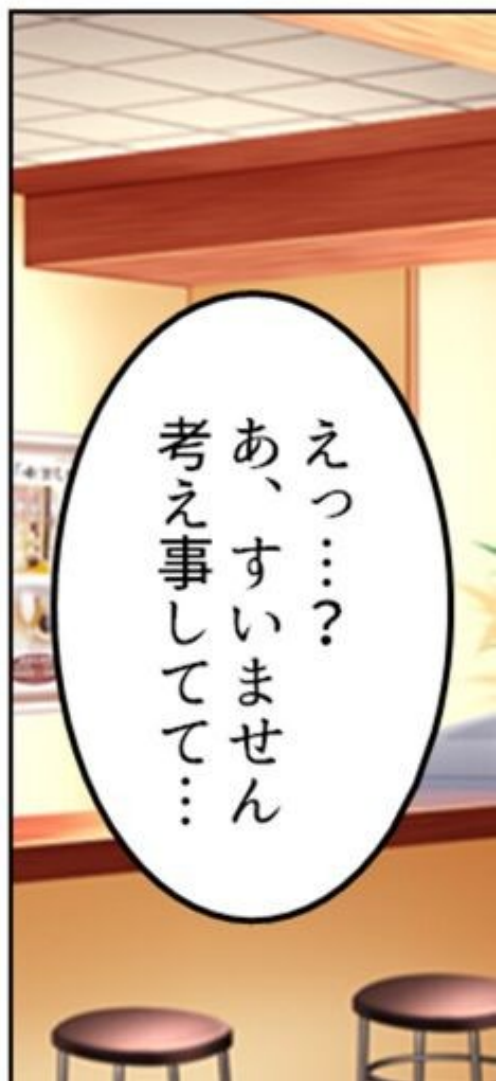


…なあってことに  
なっちゃったり!？

どふふ…



もう、どうせ…  
エッチなこと  
考えてたんでしょ…？



えっ…？  
あ、すいません  
考え事してて…



そんな子には…  
あとで、おしおき  
しなきゃね？



…これは、今夜は  
期待できるかも？

わくわく

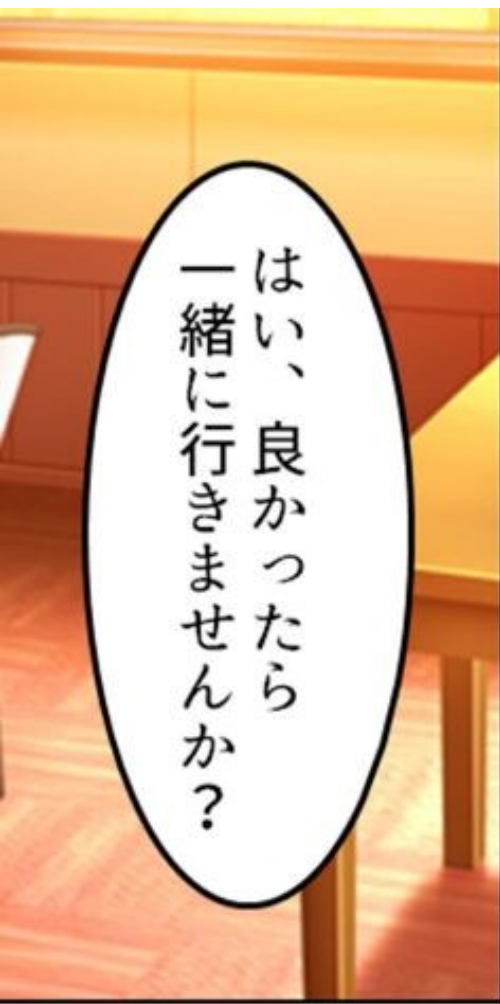
続く



…エッチな服で



第6話  
電車で痴漢に！？



はい、良かったら  
一緒に行きませんか？



えっ？  
ホテルの宿泊券？




ええ、是非！！



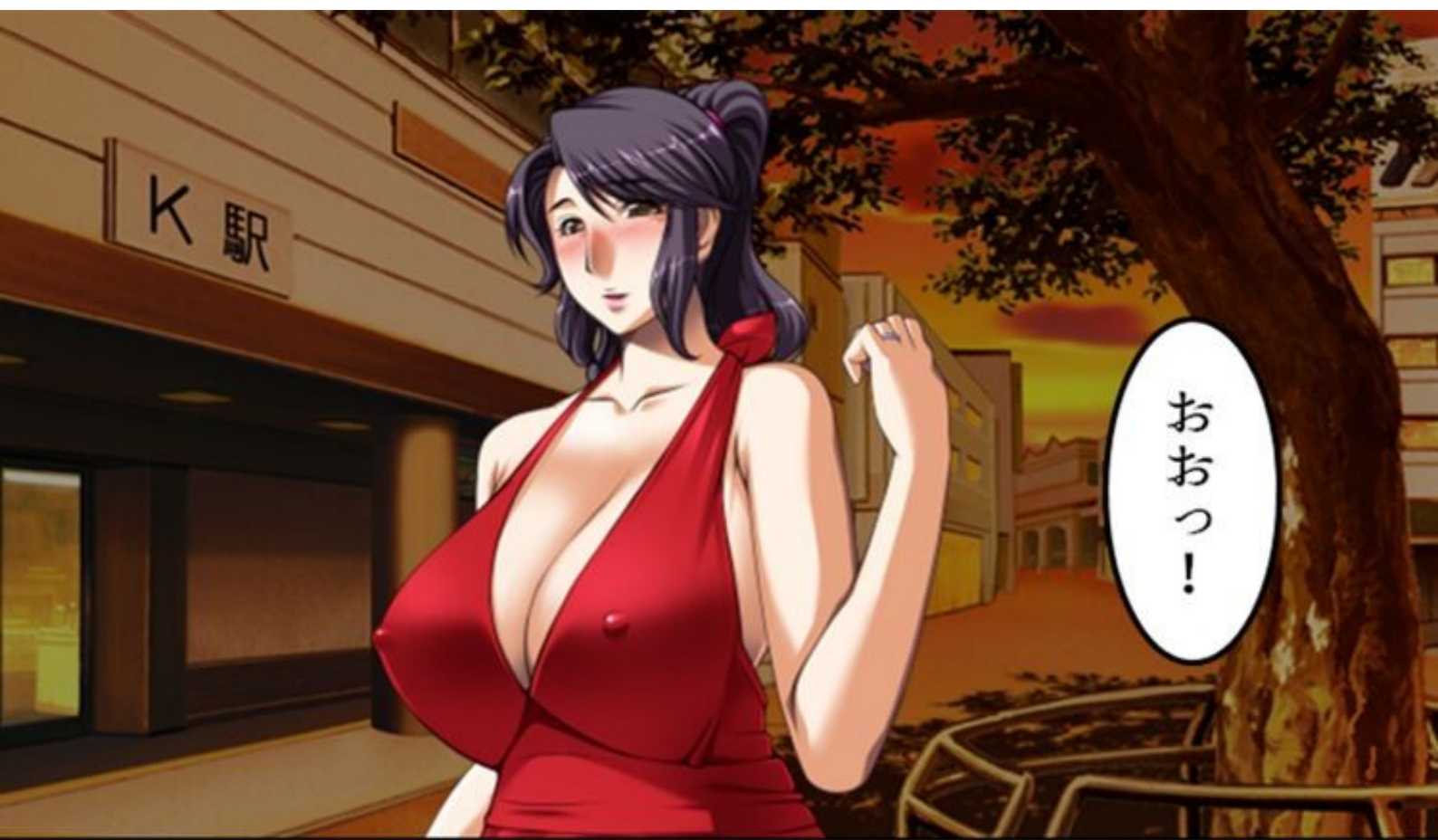
旦那さん、3日後から  
出張だって  
言っていましたよね？

そして3日後…

待ちに待った、  
旅行の日が  
やってきた！

A woman with dark blue hair tied in a bun, wearing a red halter-neck dress, stands on a sidewalk. She is looking towards the left. In the background, there is a building with a sign that says 'K', a large tree, and a sunset sky. A speech bubble is next to her.

准一くん  
おまたせ！



おおっ！

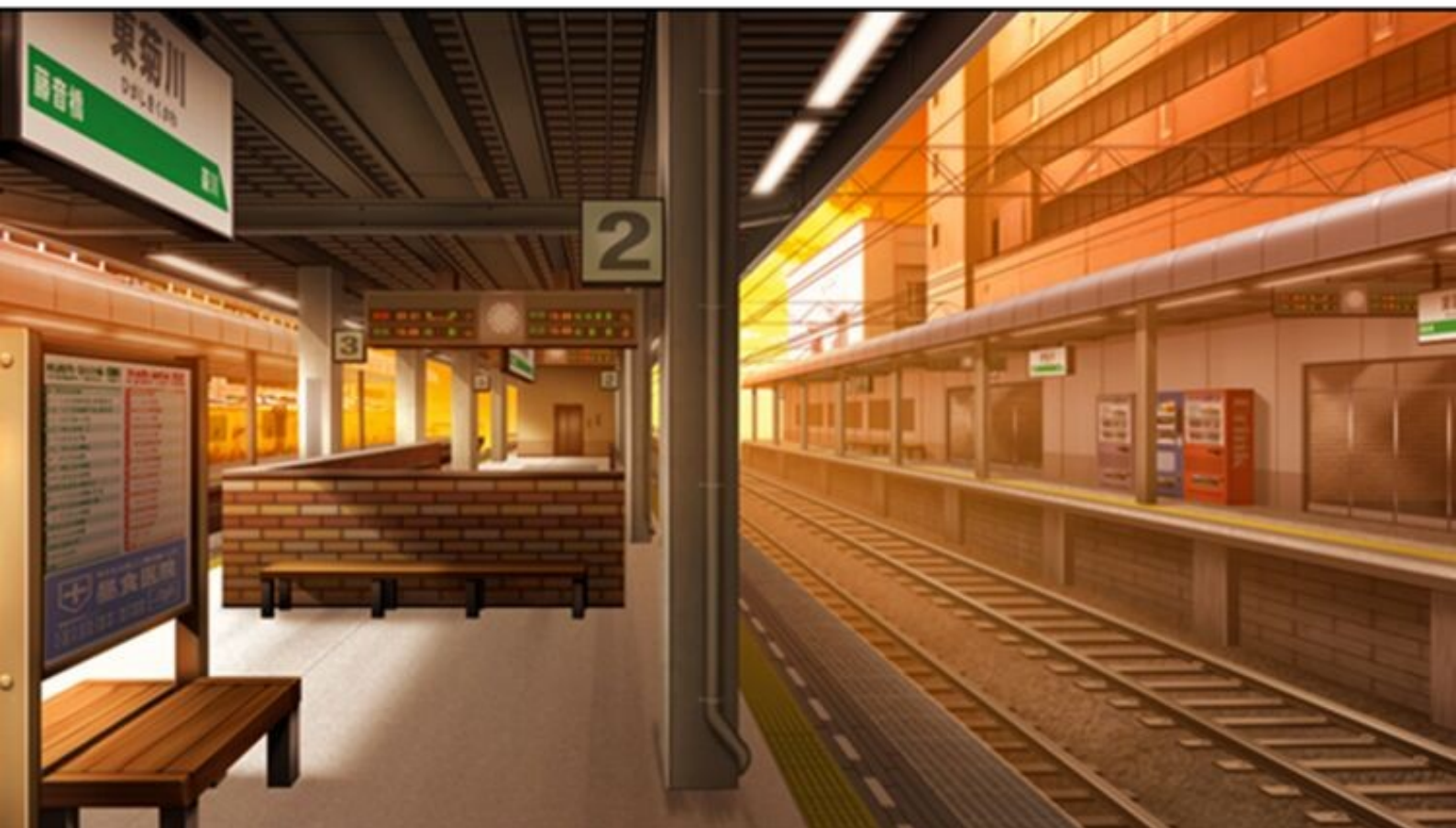


素敵  
な恰好  
です  
ねえ……！

びりり……

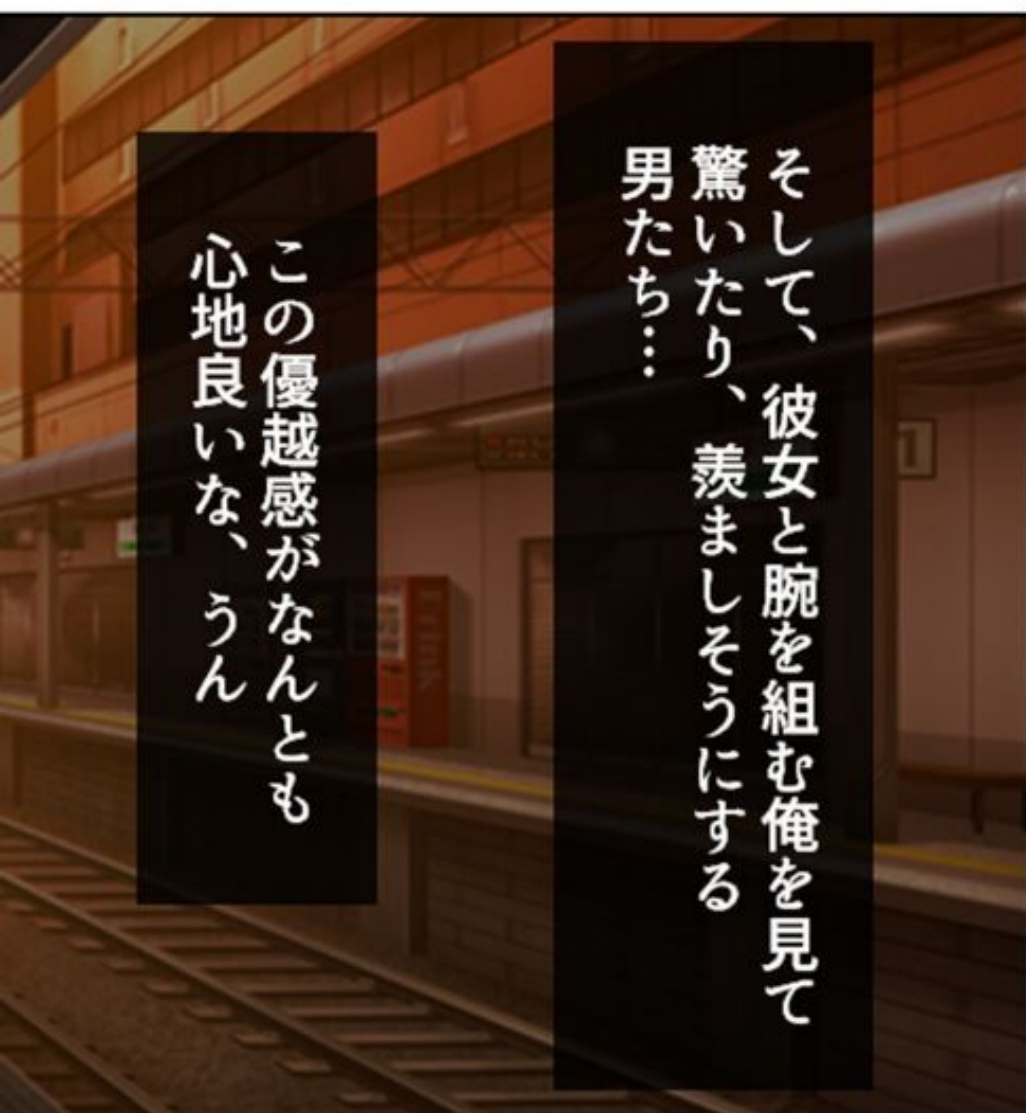


これは随分と……



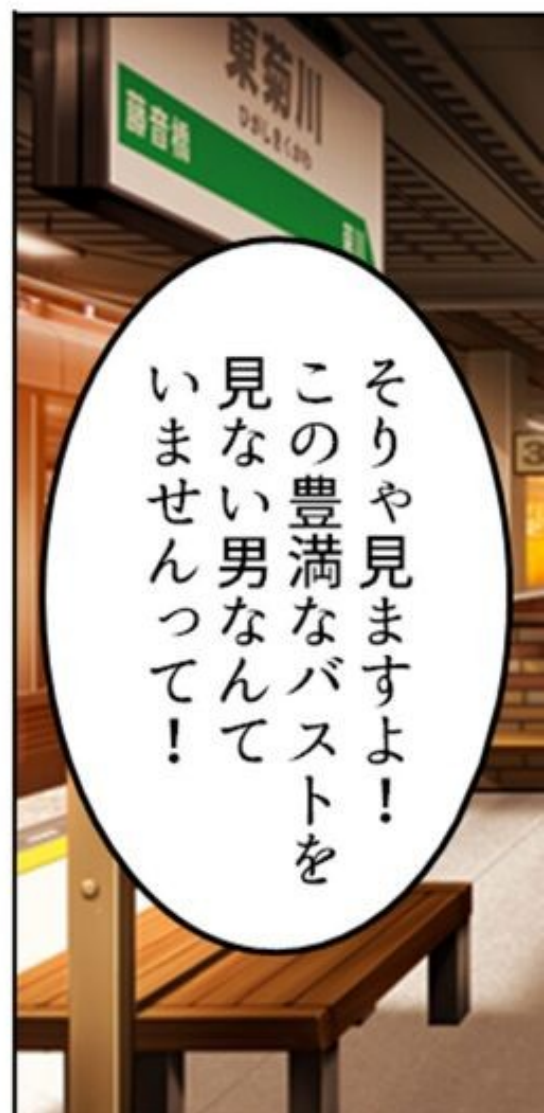


なんだか：  
私、見られて  
ないかしら？

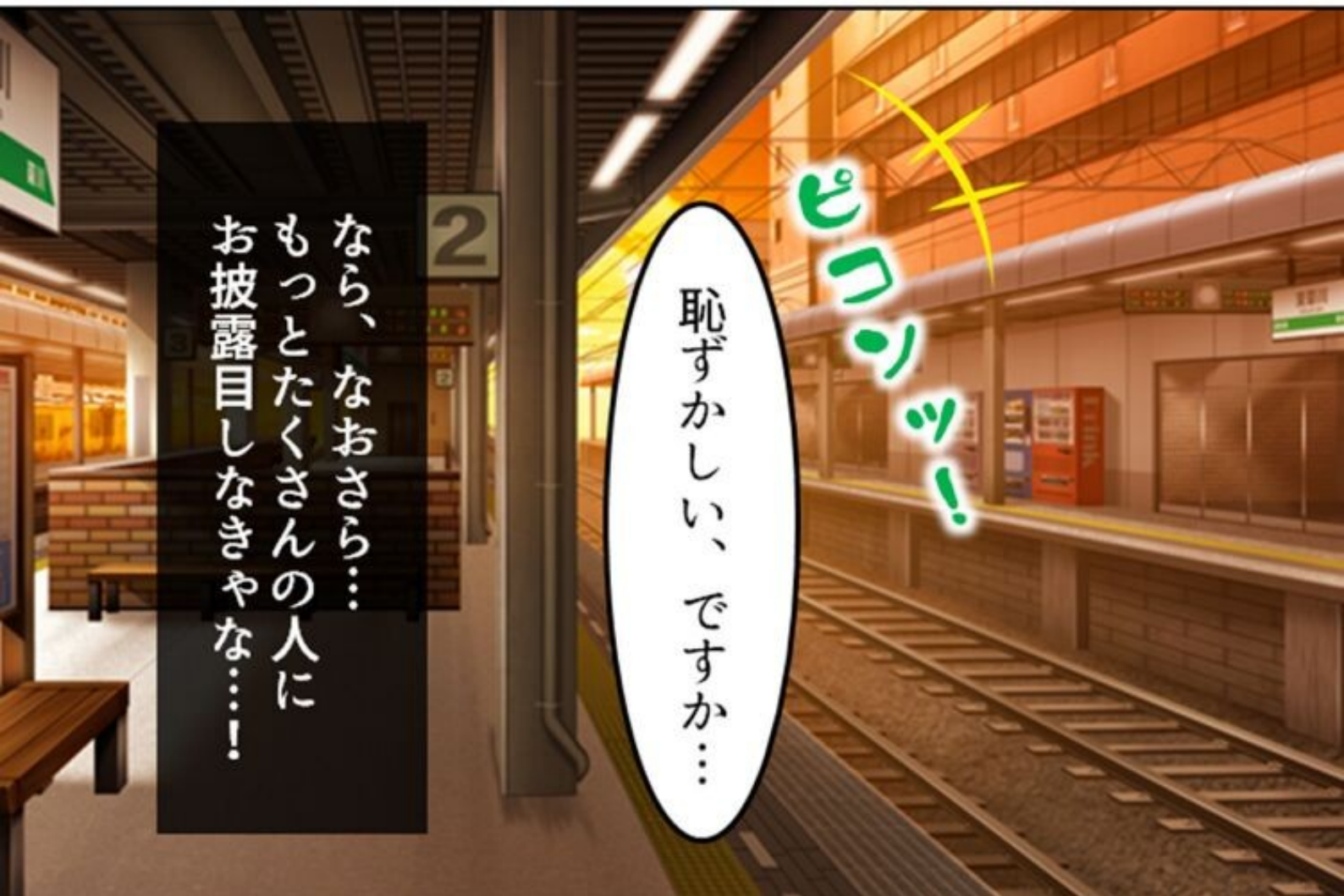


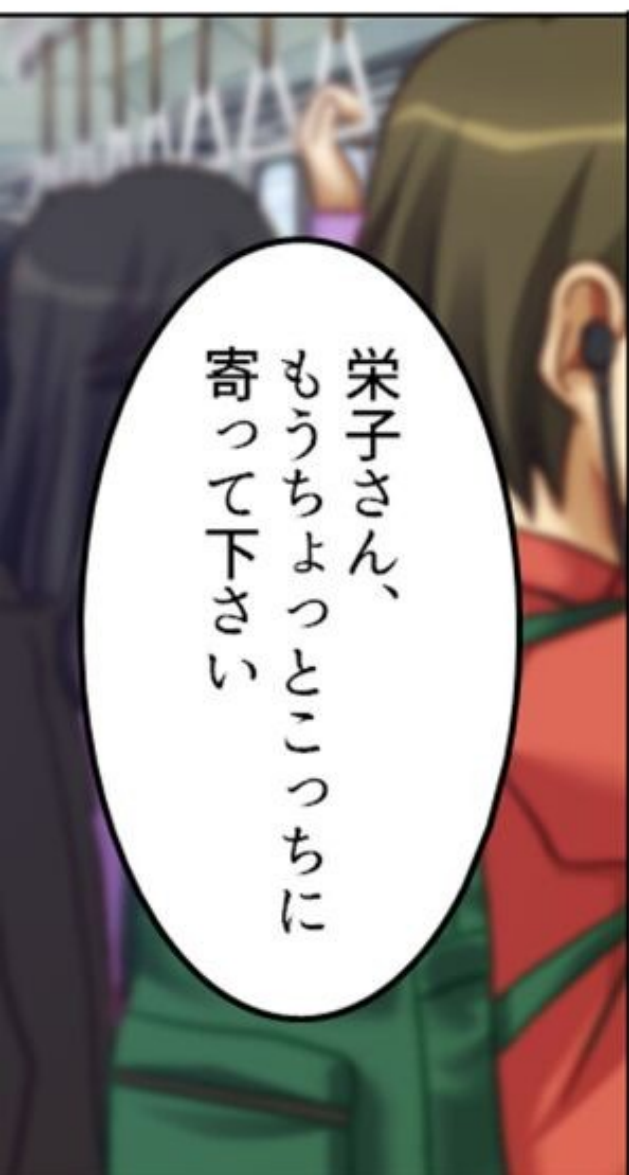
そして、彼女と腕を組む俺を見て  
驚いたり、羨ましそうにする  
男たち：

この優越感がなんとも  
心地良いな、うん



そりゃ見ますよ！  
この豊満なバストを  
見ない男なんて  
いませんっつて！







そうね、でも、  
ちよつと狭いかしら…



これだけ混んでくると、  
痴漢に遭うかも  
しれないですから

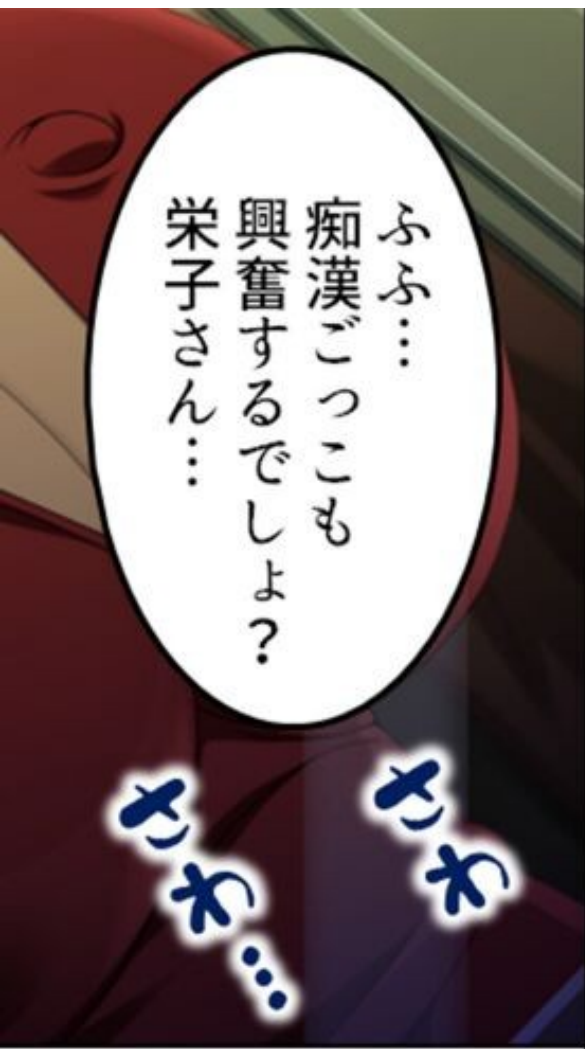



じゅ、准一くん…  
ちよつと  
胸が苦しいわ…




頑張つて、もう  
ちよつとこっち…







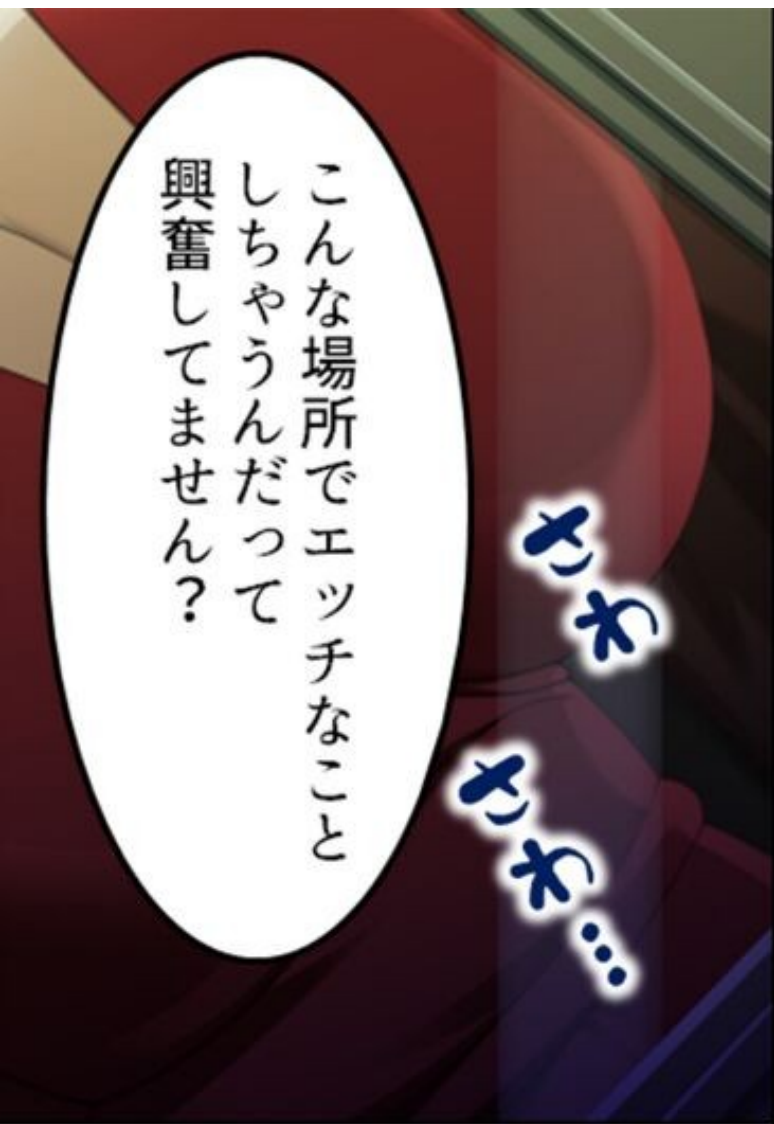
いいじゃないですか  
この路線なら、知り合いは  
いないですし…



楽しみましょうよ？  
栄子さん…



あ…  
ダメ、ダメえ…!!



こんな場所でエッチなこと  
しちゃうんだって  
興奮してませんか？

オオオオ...



そう言うわりに、  
嫌そうな反応じゃない  
ですよ？

ドキ

ドキ



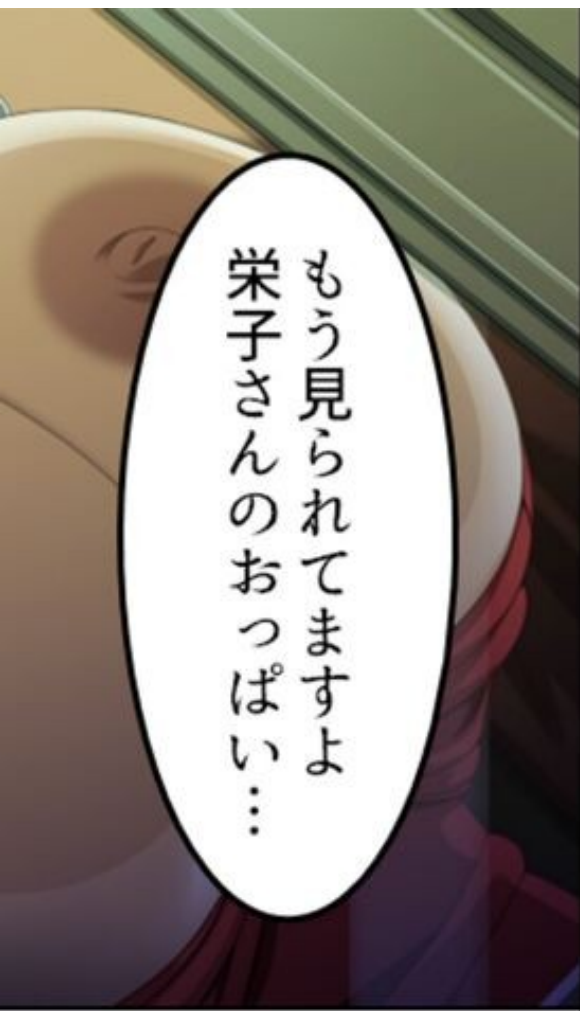
そ...  
そんなこと...

ドキ



どうでしようねえ…  
あ、反対路線と  
すれ違えますね





もう見られてますよ  
栄子さんのおっぱい…



きゃっ…!!  
だ、ダメえ!  
見られちゃうう!!



今夜は、何人の男の  
オカズになるんで  
しようね?



ほら、あの学生なんて  
ガン見してる…



興奮してるんだから  
立派な痴女じゃない  
ですか

ああんっ！ダメえ…  
痴女だと  
思われちゃうう…！

はあ  
はあ…



ほらっ、もっと  
よく見せて  
あげましょう！

いんちき...  
いんちき...

ぐいゅ

ぐいゅ





ほら、みんな釘付けに  
なってますよ……!!



ああっ……  
も、揉まないで……!!



おっぱい  
揉みしだかれて……

もじゅ

ぐじゅ



感じまくってる  
栄子さんを、みんな  
見てますよ……!!



乳首いじられて  
起きたせちやって……

ぴくん



もうダメって、  
イキそう  
なんですか……?



あ……准一くん、  
私……もう、  
ダメえ……

はあ

はあ




奥様  
やっぱり痴女ですね



分かりました…  
じゃあ、好きなだけ  
イってください…!!



んっ…ち、痴女でも  
いいから…  
お願い、イかせて…!!



あつ……あつ……!  
いく、いっちやう……!

もにゆ

もにゆ

電車で痴漢されて  
みんなに見られて……  
いっちやう……!

どにゆ

もにゆ



あつ……あつ……!  
いく、いっちやう……!



ああっ…ひいっ…  
イっちゃった…!!

見られながら、  
イっちゃったあ…!!

ビクッ  
ビクッ  
ビクッ

ビクッ  
ビクッ  
ビクッ






…くすっ  
そう言われたら、  
怒るに怒れないじゃない



さ、ホテルに  
行きますよ？




はあ、  
メシが上手かった！

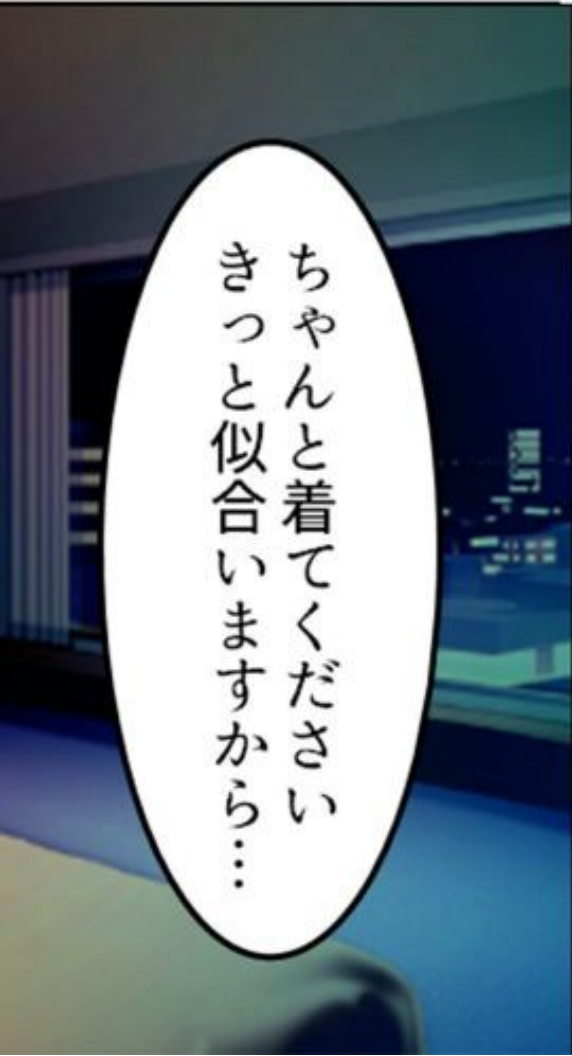


まあ、メインディッシュは  
これからなんだけどね…

ふふふ…



准一くん…  
本当に、これ着なきや  
ダメ…？



ちゃんと着てください  
きっと似合いますから…





いいじゃないですか！  
似合ってるし…：すごく  
エロいっ…！！



…やっぱり、  
恥ずかしいわ…

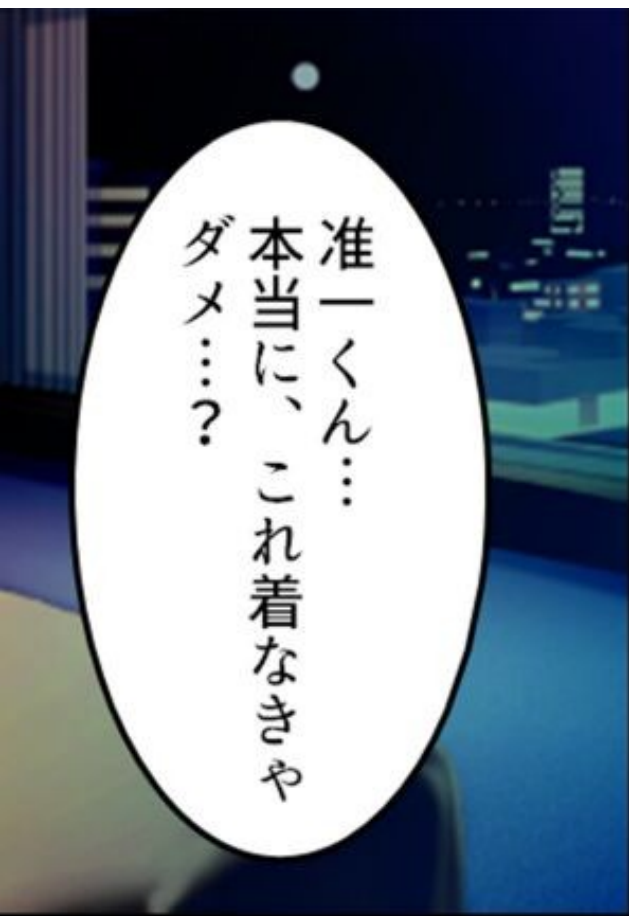


さあて、早速  
准一先生の授業を  
始めますよ…！！

続く



第7話  
妻の淫らなセーラー服



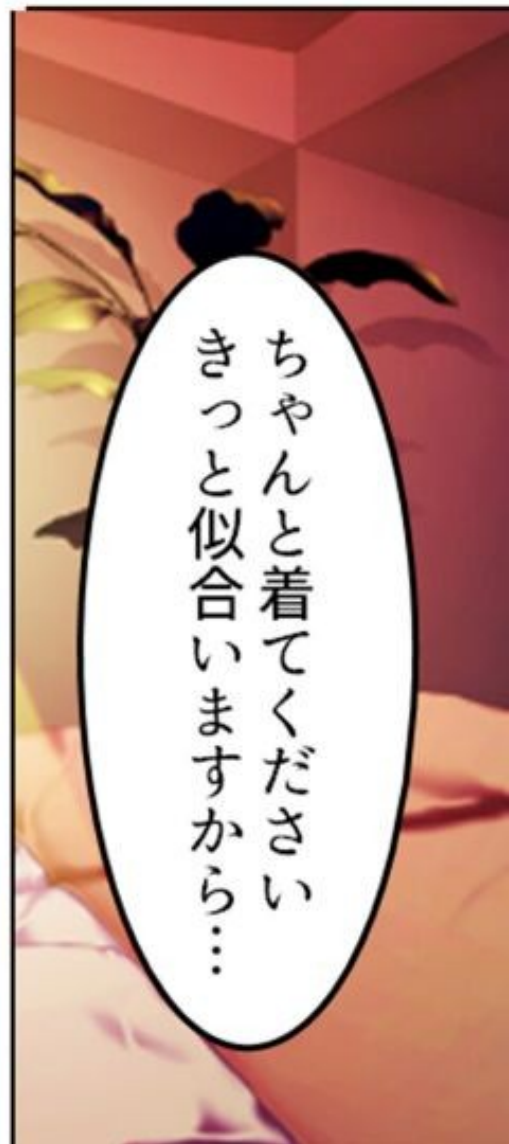
准一くん…  
本当に、これ着なきや  
ダメ…？

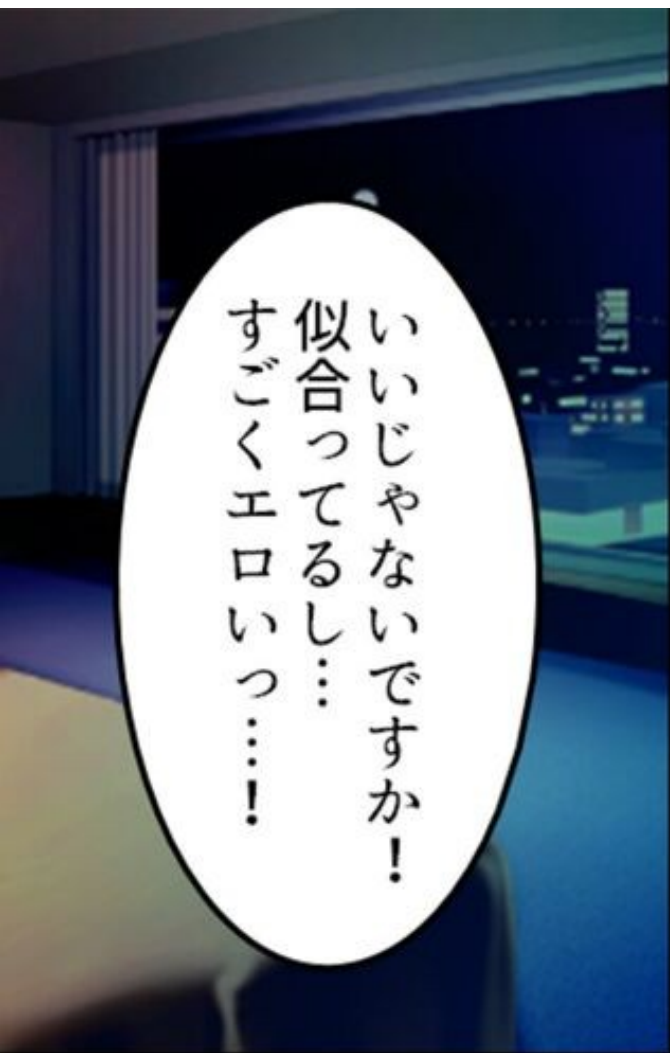


高級ホテルに泊まった  
俺と栄子さん…



ちやんと着てください  
きつと似合いますから…





いいじゃないですか！  
似合ってるし…  
すごくエロいっ…！



…やっぱり、  
恥ずかしいわ…



さあて、早速  
准一先生の授業を  
始めますよ…！





こちら、准一先生  
って呼びなさい  
栄子くん？



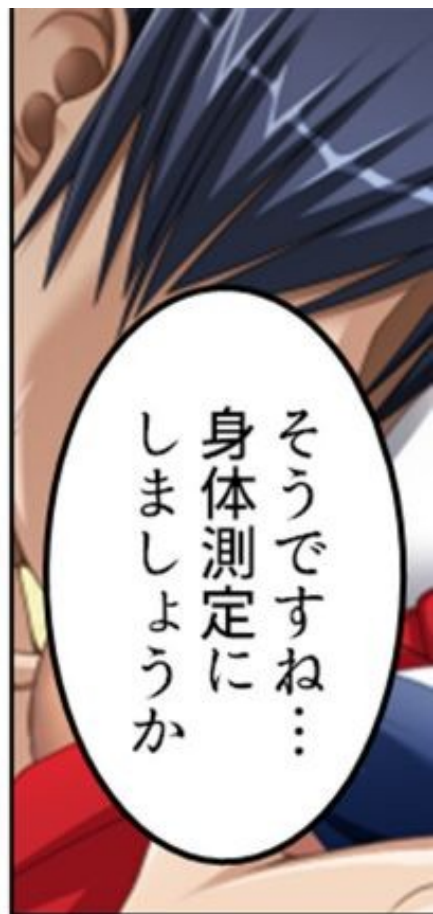
准一くん、  
あ、あんまり  
見ないで…？



まずは、何の  
授業から始める  
の？



…ふふ、ごめん  
なさい、先生？



そうですね…  
身体測定に  
しましよるか



あんっ！  
…どう、先生？  
私のおっぱい？





ぢゅんっ

ちゆる

じゃあ  
どうして  
ほしいのか…



あっ!  
服の上から  
吸わないでえ…

ヒッ  
ッ



ぐ  
に  
ゆ

も  
み  
っ

ちやんと口で  
言いなさい



あん、もう……  
先生の  
イジワル……



直接接触って、  
吸ってえ……！



お願い……  
服の上から  
じゃなくて……





ああん!  
ほんとに  
イジワルう……!!



直接接触って吸って  
って言ったのは  
栄子さんでしょ？



全然  
物足りなそう  
ですね？



電車の中でも  
散々いじられて  
イッたのに…



うん、物足りないの…  
もつともつと  
気持ち良くなりたいし…



准一くんも、  
気持ち良く  
してあげたいの

しゅっ  
ぱっ  
しゅっ





はい、  
いつも通り  
最高です…！

おにゅ  
べにゅ



どう？  
気持ち良い？  
准一くん？



ちゅっ  
れろっ



ふふ、准一くん  
おっぱい  
大好きだものね？



ぱろっ  
れろっ

はあっ!  
ああ、いいっ!



ふふ、准一くんのおかげよ?

ぱろっ

ぱろ



前より上手になりましたね、栄子さん...!

びにゆ

びにゆ



気持ち良いこと  
いっぱいして  
くれたもの…

私のおっぱい、  
好きだって  
言ってくれて…



だから、私も  
この胸で良かったって  
思えるようになったわ



だからね  
准一くん…  
気持ち良  
く  
な  
っ  
て  
？



栄子さん…



も  
に  
ゆ  
っ

ち  
ゆ  
る

ぽ  
ん  
っ

ぶ  
に  
ゆ



ふふ、  
出ちやいそろう？




あつ…  
え、栄子さん！  
そんな激しく  
したら…！！




いっぱい、私の  
胸と口に出して、  
准一先生？



いいのよ？  
たくさん  
出して？



はあっ…  
そ、そんなこと  
言うなんて…  
卑怯ですよ…!!



ああ…  
で、出る…!!

ヒョムッ!!  
ヒョムッ!!  
ドカン!



あ、いっぱい  
出てる！  
准一くんの  
精液…！！

ぎゅ  
ぎゅ

ドロ…！！

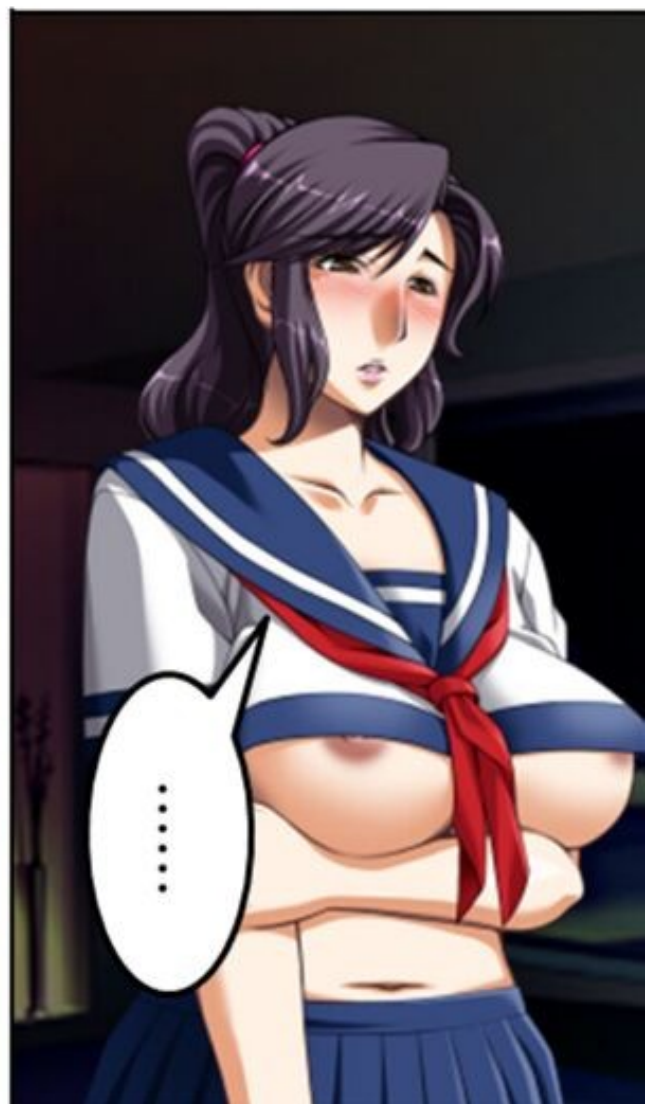
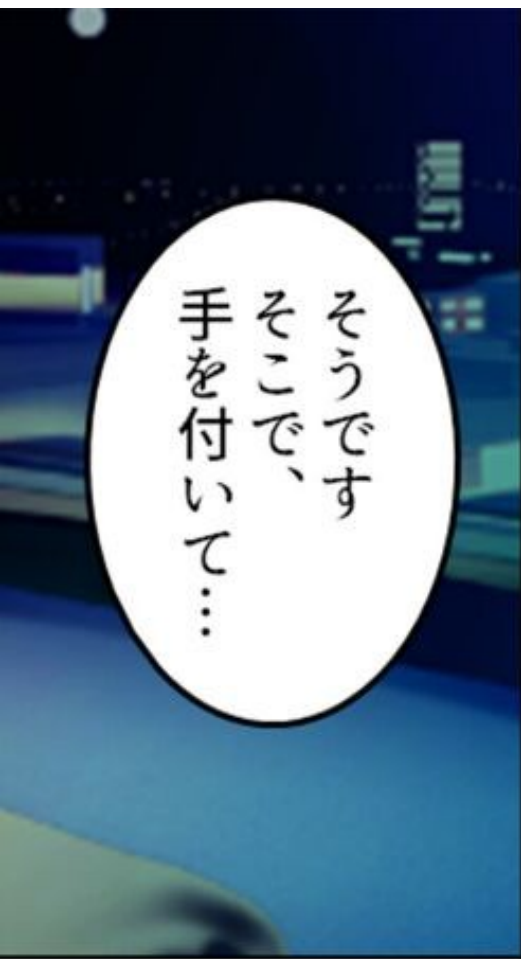


え、栄子さん…  
窓のところに行  
行ってください




んむっ…

ぐんぐん  
ぐんぐん






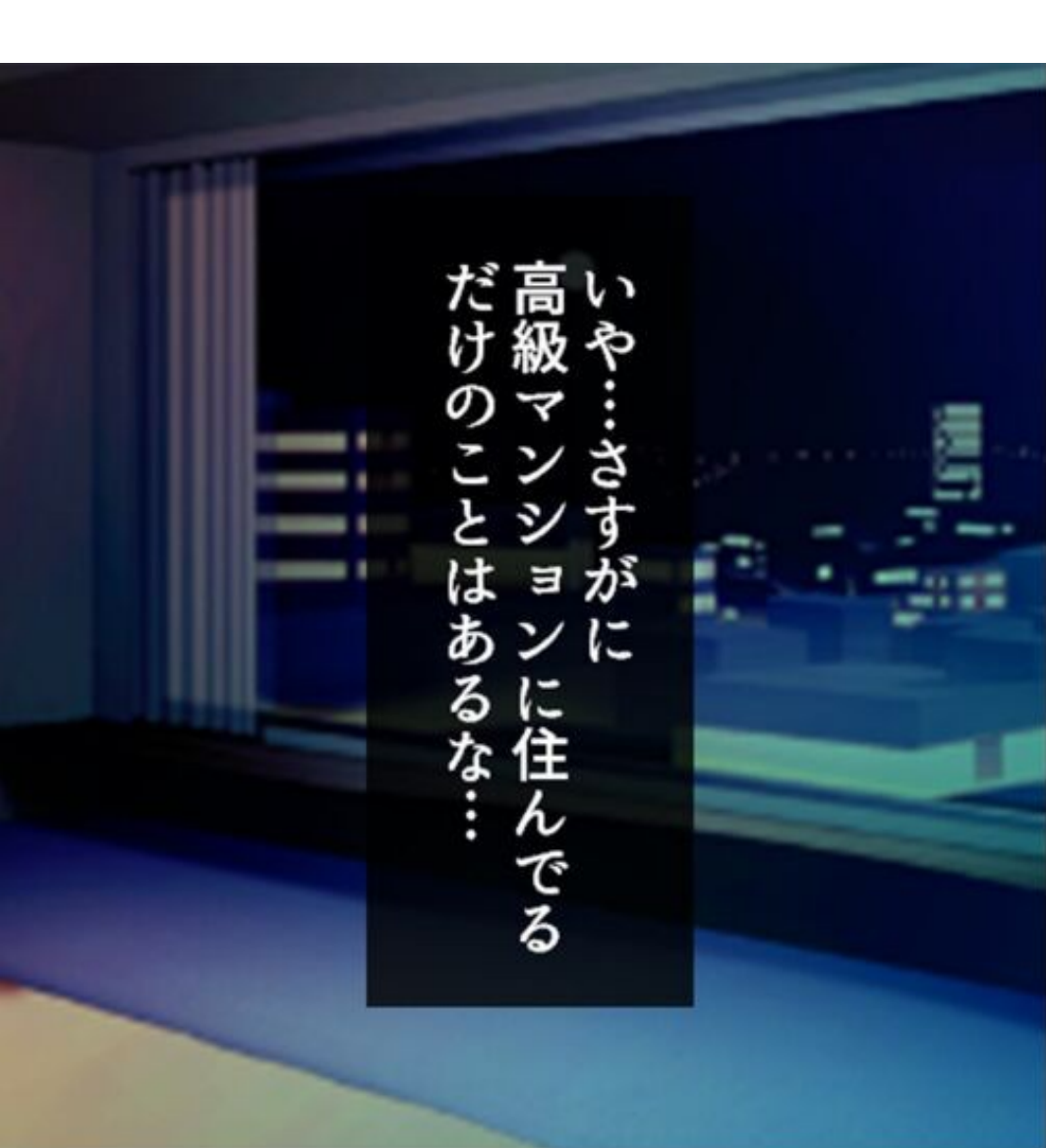
はい、アレですね…  
大手企業の  
有名なビル




准一くん、  
あそこにビルが  
見えるでしょ？  
一番高いやつ



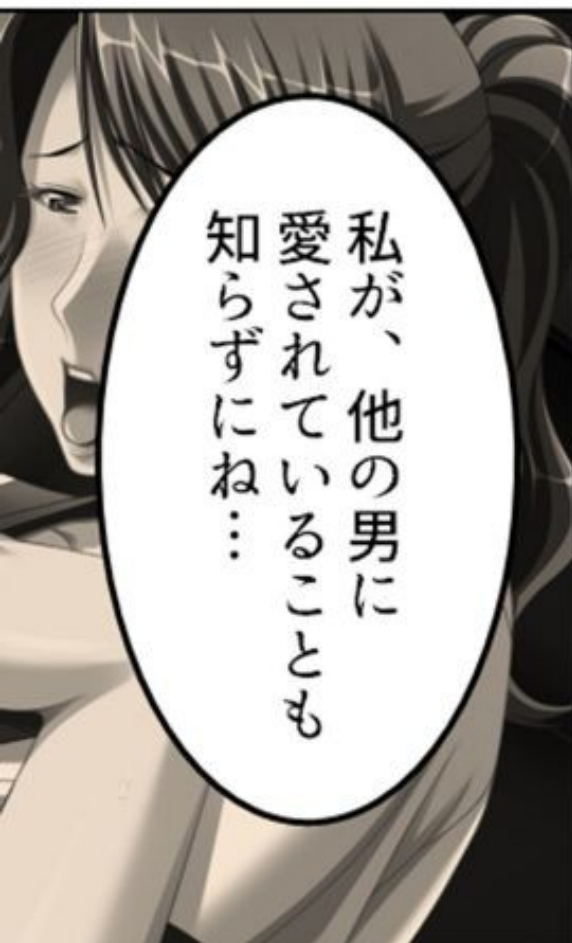
主人ね？  
あそこで  
働いてるのよ？




いや…さすがに  
高級マンションに住んでる  
だけのことはあるな…



えっ!?!?  
あそこで!?!?



私が、他の男に  
愛されていることも  
知らずにね…



…主人は今も、  
あのビルで  
仕事をしてるはず



…栄子さん？



夫の前で…  
たくさんたくさん  
愛して…!!

続く



准一くん、私を  
もつと犯して？



第8話  
夫の前で愛して！



私が、他の男に  
愛されていることも  
知らずにね…



…主人は今も、  
あのビルで  
仕事をしてるはず



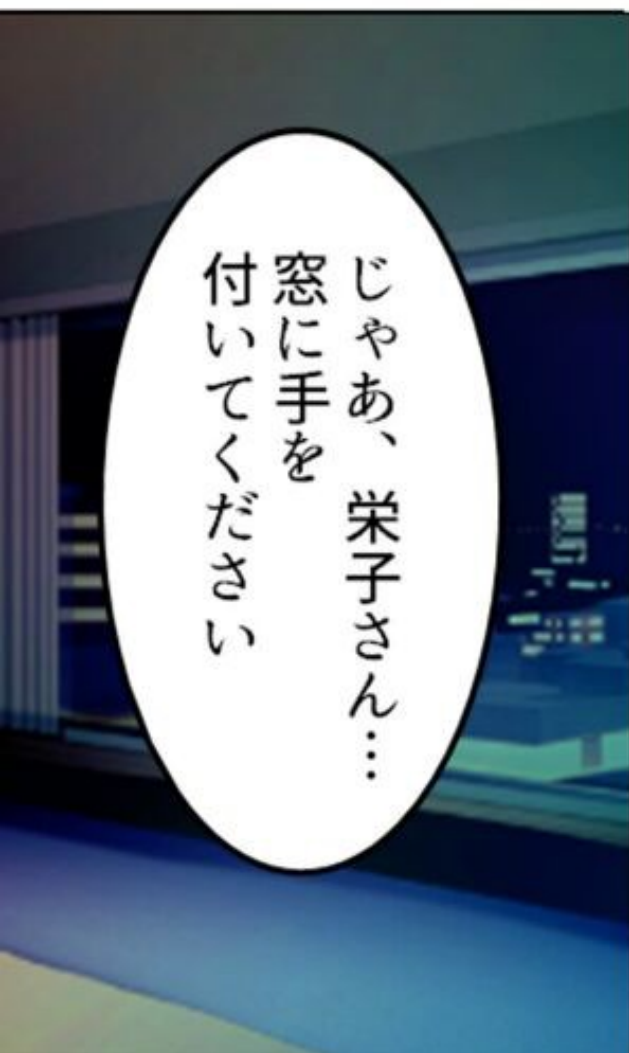
准一くん、私を  
もつと犯して？



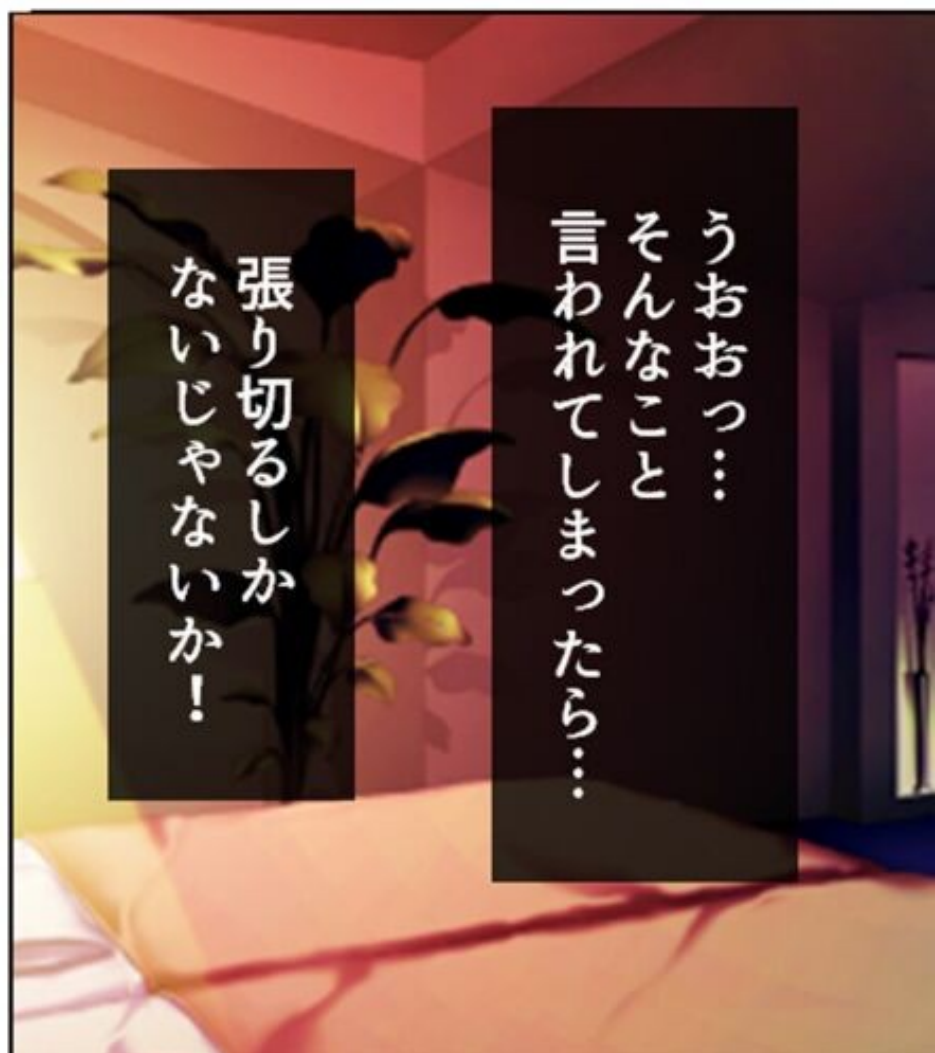
…栄子さん？



夫の前で…  
たくさんたくさん  
愛して…!!



じゃあ、栄子さん…  
窓に手を  
付いてください



張り切るしか  
ないじゃないか!

うおおっ…  
そんなこと  
言われてしまったら…



そうですね、  
それでお尻を  
突き出して…





一気に  
いきますよ  
栄子さん！



ああ、  
准一くん……！



ああっ！



ずん……！



どうですか、  
栄子さん？  
気持ち良い  
ですか？



あ、激しいっ！  
奥まで  
オチ○チンがあっ……！



うん、気持ち良い……！  
たくさん、たくさん  
突いて！



ああんっ!

ずぱっ  
ずぱっ  
ずぱっ  
ずぱっ



こうですか?

くっ  
くっ  
くっ



おっぱいも、  
たくさん  
いじってえ!



准一くん  
に  
マ○コと…

あっぱっ

あっぱっ

じゅぱっ



びくん!

あっ、おっぱい  
気持ち良い…!

はあ

はあっ



おっぱい  
苛められて、  
気持ち良いのお…!

あっぱっ

あっぱっ



栄子さんは  
いつも以上に  
激しく腰を動かして  
乱れている…

あっ

あんっ



夫の仕事場が見える  
この場所で、  
痴態を晒すことに  
興奮しているようだ…

ああっ…

ぱんぱん

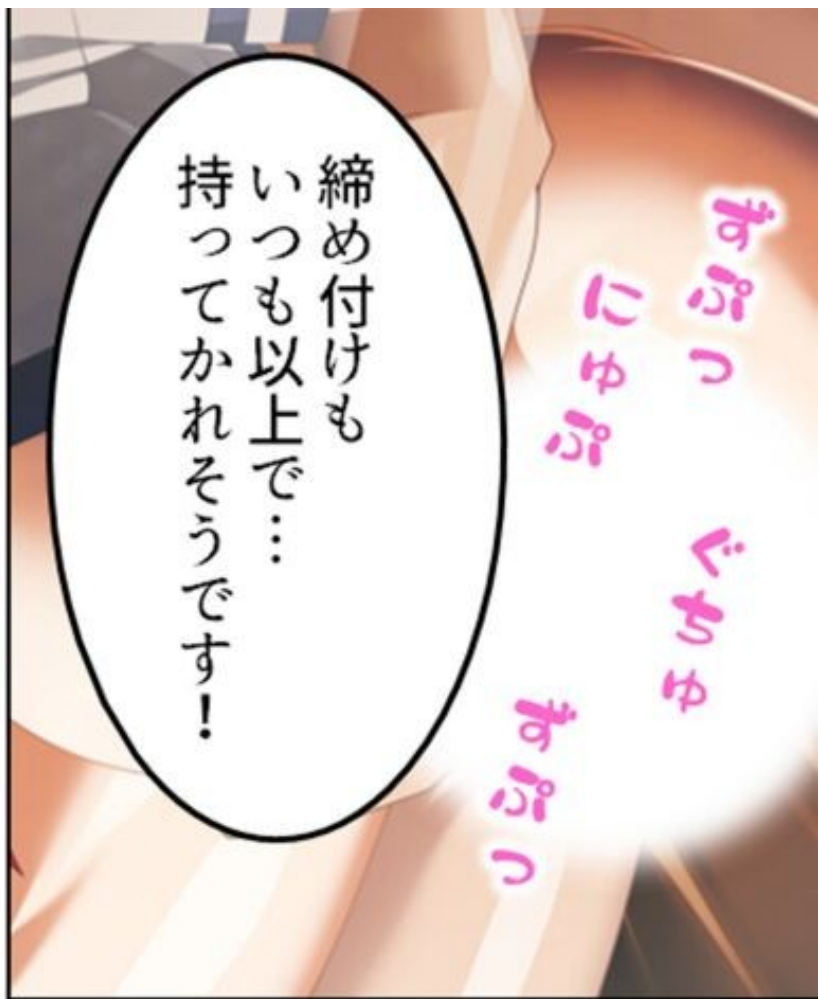
ぱんぱん

あっ





はあ、あっ……！  
准一くん、  
もつと……！



締め付けも  
いつも以上で……  
持ってかれそうです！

あぶっ  
にゅぷ  
あぶっ



乱暴にして  
いいからっ……！  
あっ……！

あぶっ

あぶっ

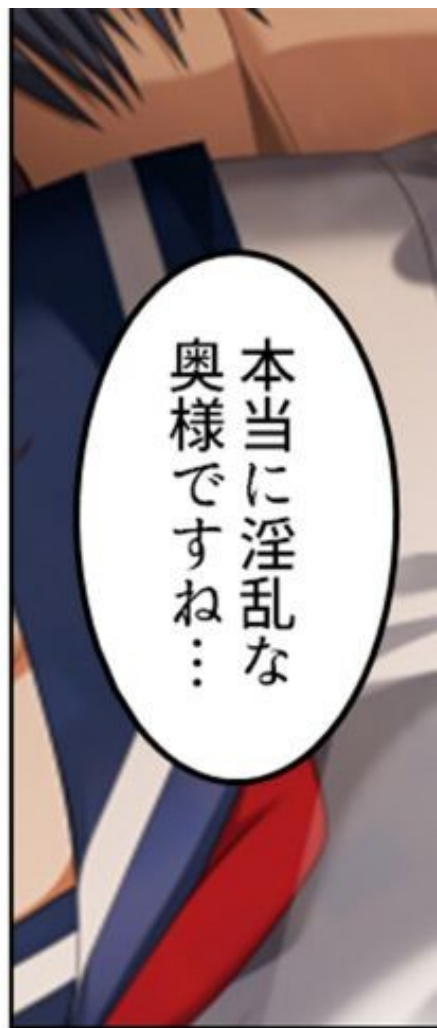
あつ、ん……!  
もつと、夫に……

見せ付けてえ……!



夫に不倫現場  
見せ付けたい  
なんて…

ぢゅぱ  
ぢゅぱっ



本当に淫乱な  
奥様ですね…



他の男に  
マ○コ突かれて、  
悦んでるのお…!!

ぢゅぱっ  
ぢゅぱっ



あっ、あっ…  
私、人妻なのに…



はあ  
はあ

はあ…

栄子さん、  
すごく  
エロいですよ…



学生の  
若いチ○ポに  
よがりまくって…




ちんぽ


ちんぽ

くっく

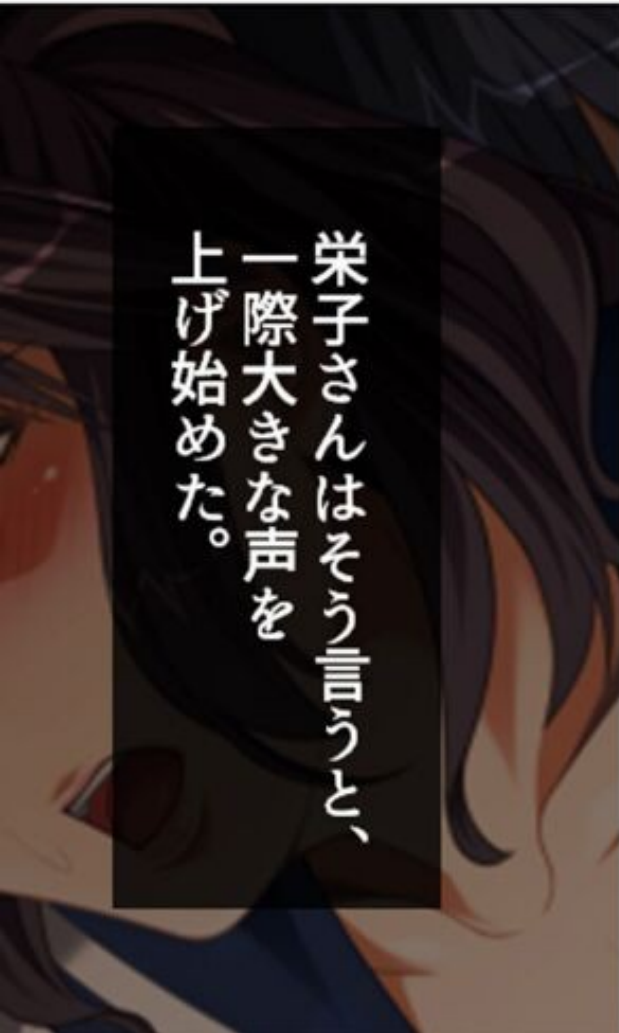
このおっぱいも  
マ○ロも…



もう、  
旦那さんではなく、  
俺専用のに  
なっちゃいますね



ええ、そうよ…  
准一くんの  
専用なの…!!



栄子さんはそう言うこと、  
一際大きな声を  
上げ始めた。



ああっ！  
あなた、  
見てえ！

え、  
栄子さん！？



あなたが、  
仕事してる間に……



私、准一くん  
に愛されてるの……！！



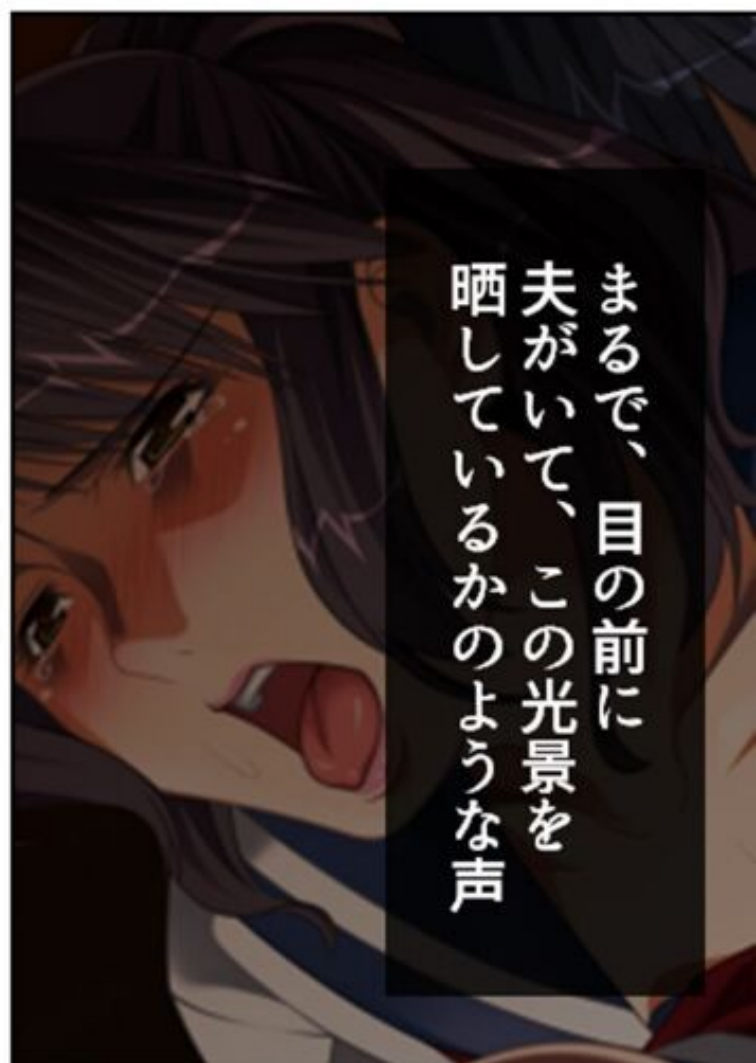
すぐそばで、  
たっぷり  
愛されてるのお……!

ちゅ

ぐちゅ



その興奮に、  
俺の息子も  
限界が近づいてくる……!



まるで、目の前に  
夫がいて、この光景を  
晒しているかのような声



中に…  
出しますっ…!!

ぱんぱん!!



ああっ!  
出しますよ!  
栄子さん!!

ぱんぱん!!



ん、ああっ!  
出して、出してえ!



夫の  
仕事場前でえ…

パ  
ン  
パ  
ン



たくさん  
中出し  
してえ!!!

いきますよ  
栄子さん!



あああっ!

ピクンッ!

ピクンッ!

ピクンッ!!  
ピクンッ!!  
ピクンッ!!



あ、出てるう…  
私の中に、  
たくさん…！

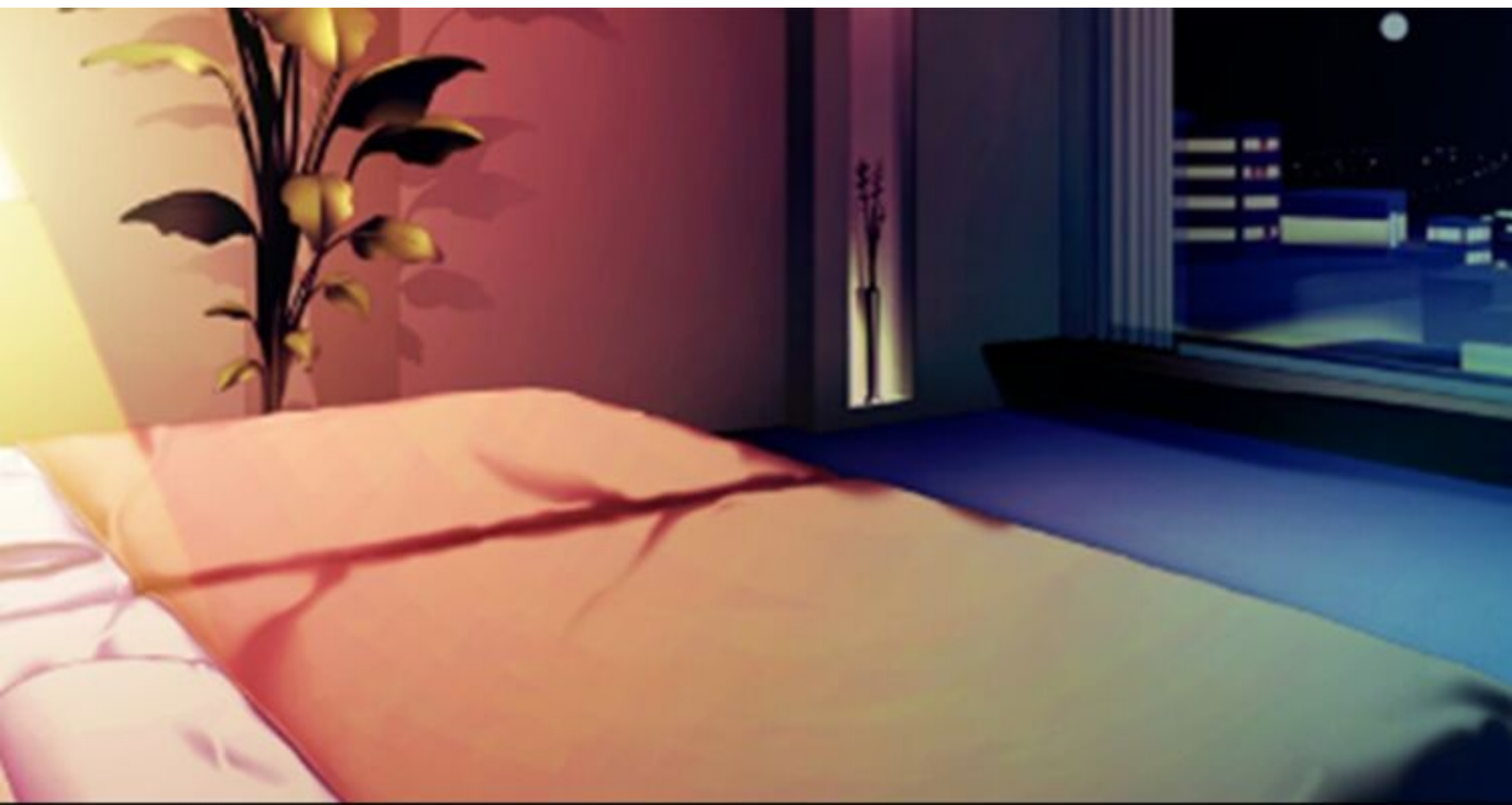
びく  
びく

びく  
びく



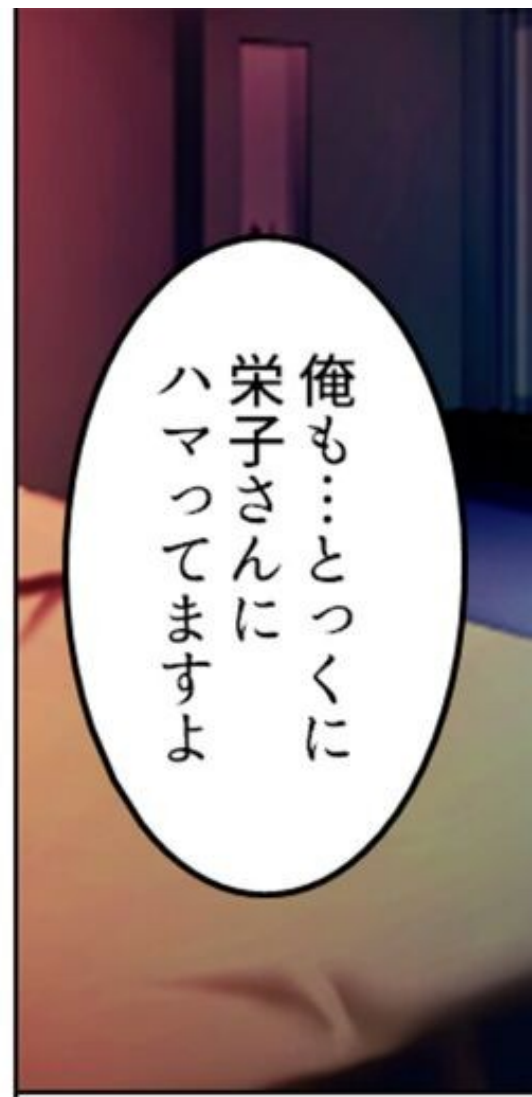
私、もう…  
准一くんの女に  
なっちゃったのお…

びく…





もう、栄子さんの  
おっぱいとおマ○コは、  
俺のものです




俺も…とつくに  
栄子さんに  
ハマってますよ




ずっと、  
ずっとね？




ええ、そう。  
私はもう  
准一くんのものよ…




魔性の笑みを浮かべた  
栄子さんに…



俺は、どんどんと  
堕ちていくのを  
感じていた…



うふふ…  
大好きよ、  
准一くん…




そしてそれは…  
恐らく、栄子さんも  
同じなのだろう…

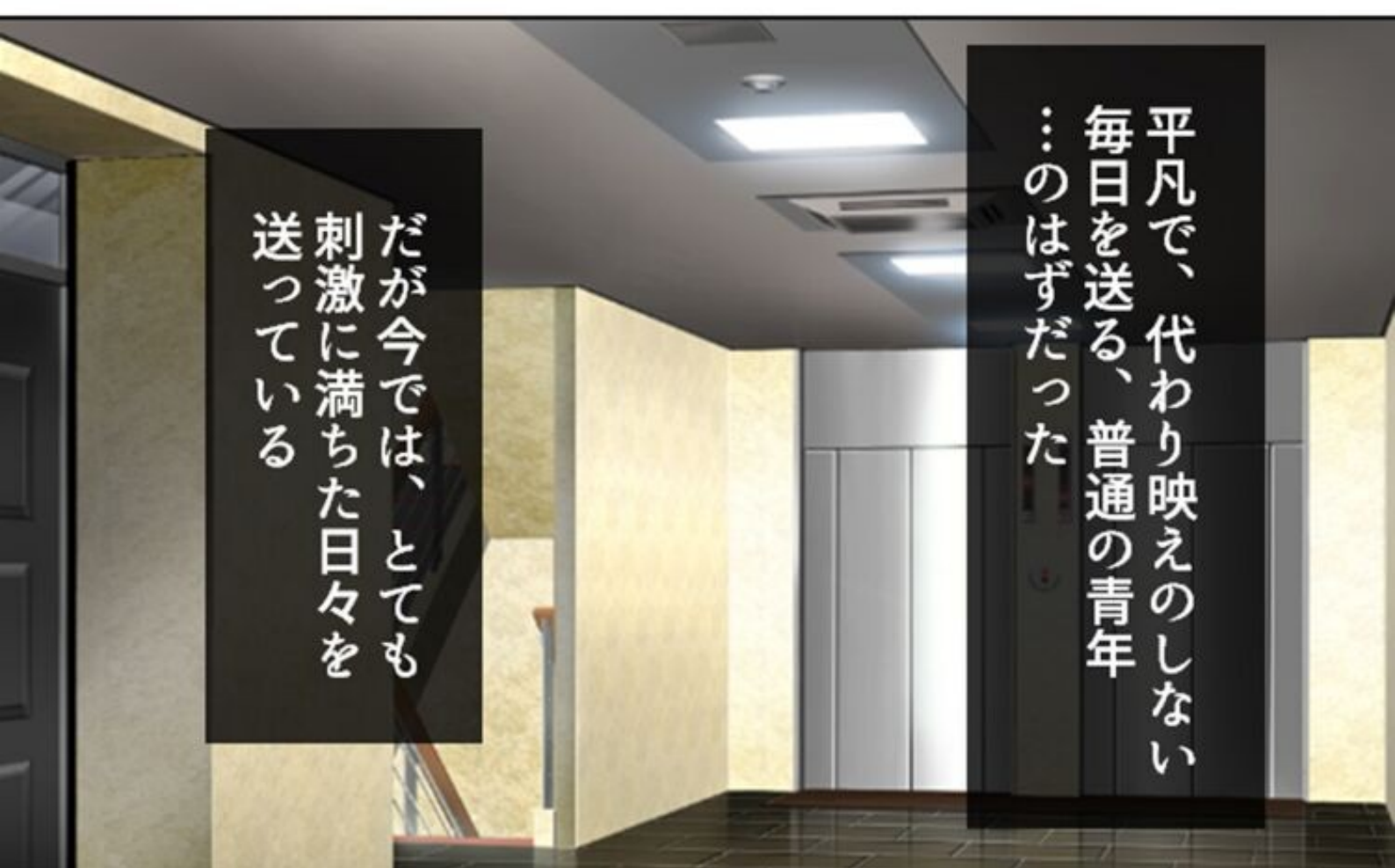
続く



最終話  
いつまでも



俺の名前は、輪島准一  
ワケあって、高級マンションの  
管理人をしている大学生



平凡で、代わり映えのしない  
毎日を送る、普通の青年  
…のはずだった

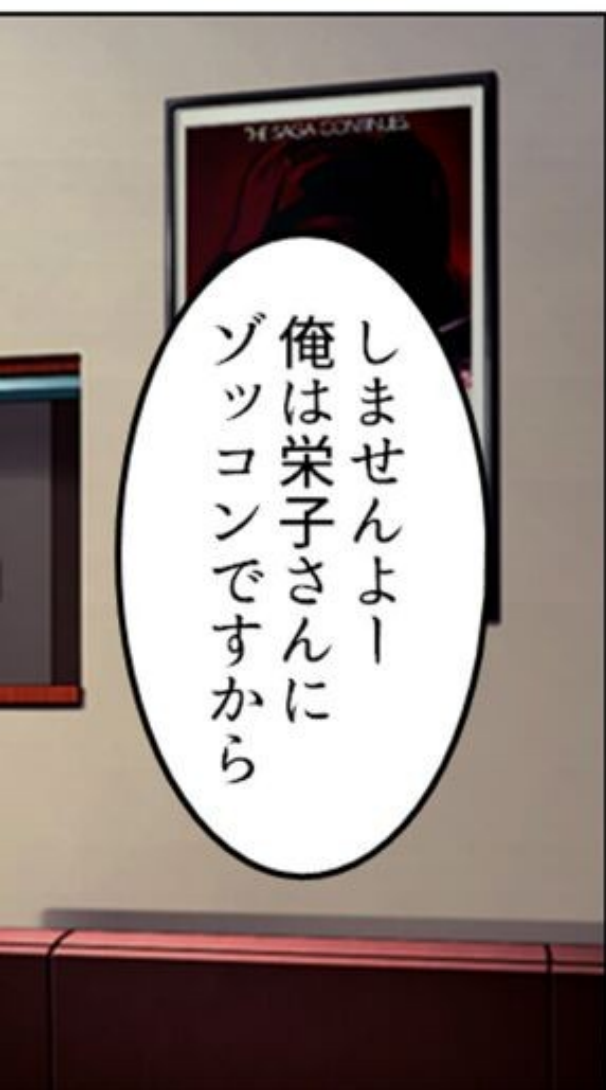
だが今では、とても  
刺激に満ちた日々を  
送っている





浮気してる  
様子は…

どうやら  
なさそうね？



しませんよー  
俺は栄子さんに  
ゾツコンですから



なんてね☆



じゃあ、准一くん…  
今夜は、  
どうしましょうか？




ふふ、  
よろしい！




えっ？  
で、でも…  
今日は…




今日は、  
栄子さんの部屋に  
行きたいです



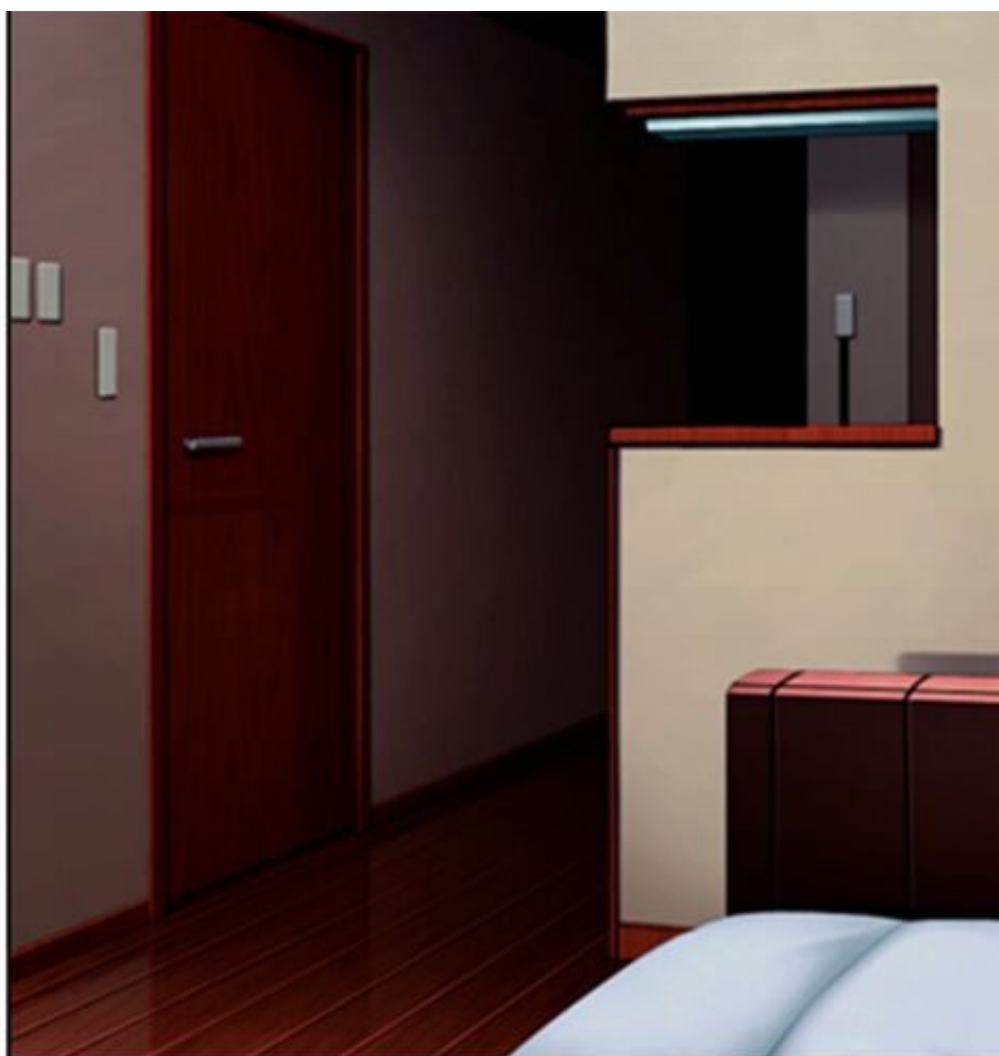
前に  
プレゼントした服着て、  
待っていてくださいね？



じゃあ、  
待ってるわね？  
今夜の十一時に



…もう、  
イケナイ人







でも、  
あんたより先に  
栄子さんが  
来ちゃってねえ…

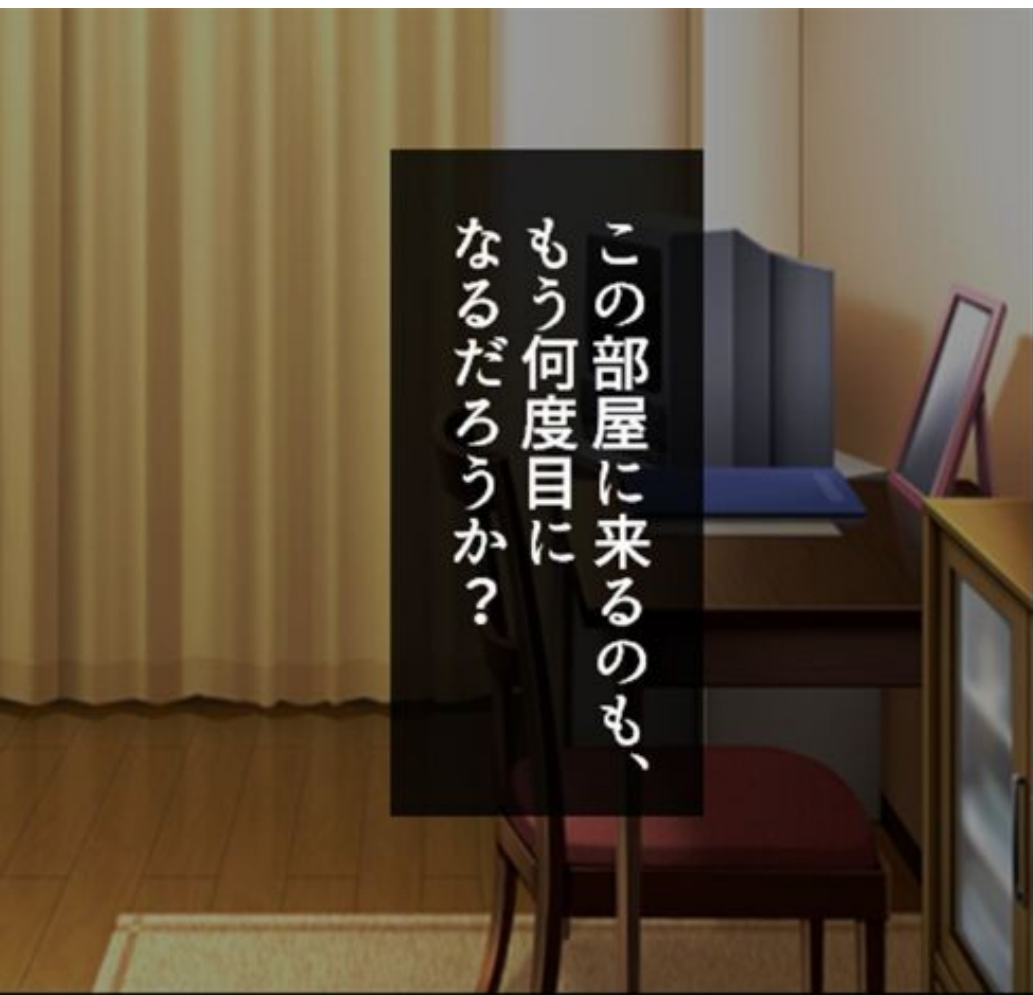


この刺激は、別に  
いらないんだけどなあ…

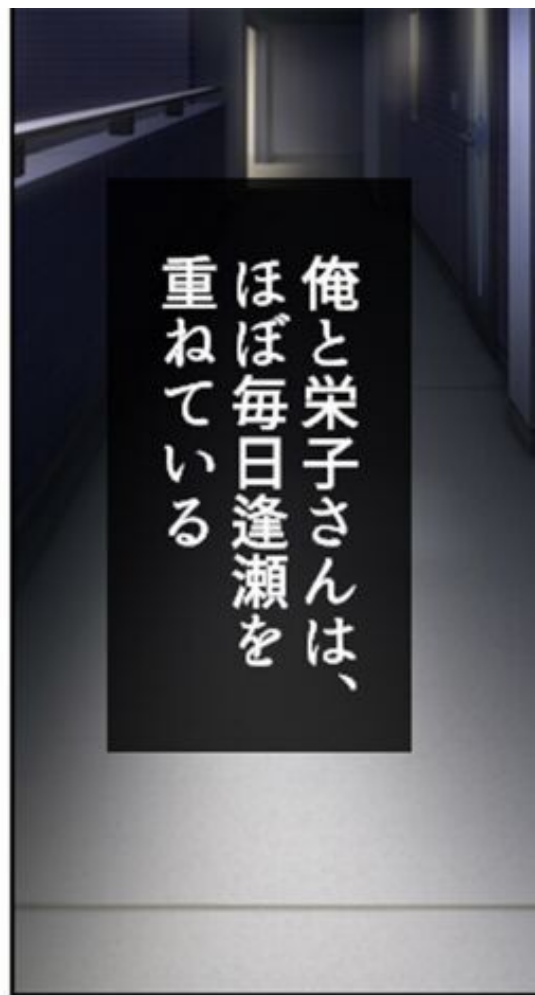
…はあ



良かったわねえ  
見つかって  
修羅場にならなくて



この部屋に来るのも、  
もう何度目にな  
るだろうか？




俺と栄子さんは、  
ほぼ毎日逢瀬を  
重ねている

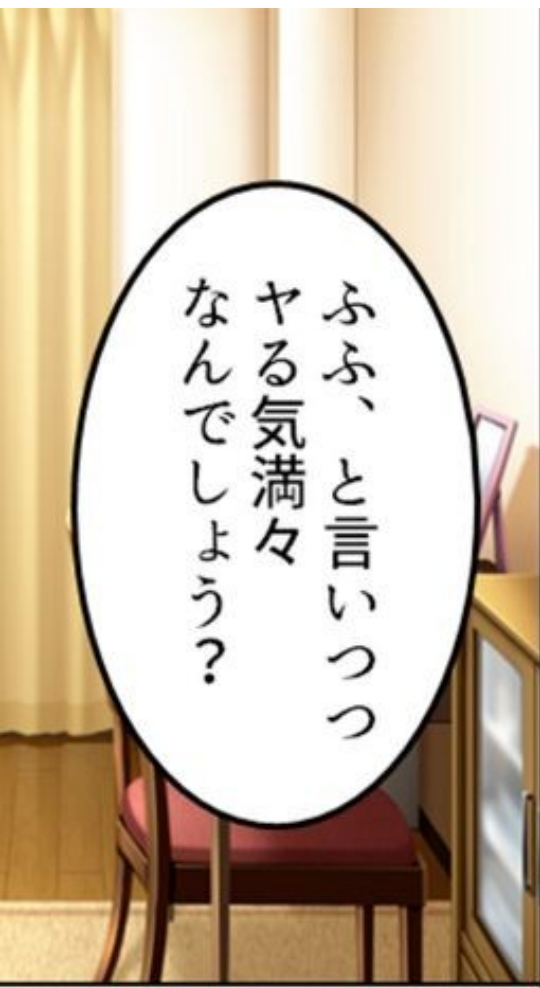


ほら、栄子さん  
ちゃんと  
見せてください

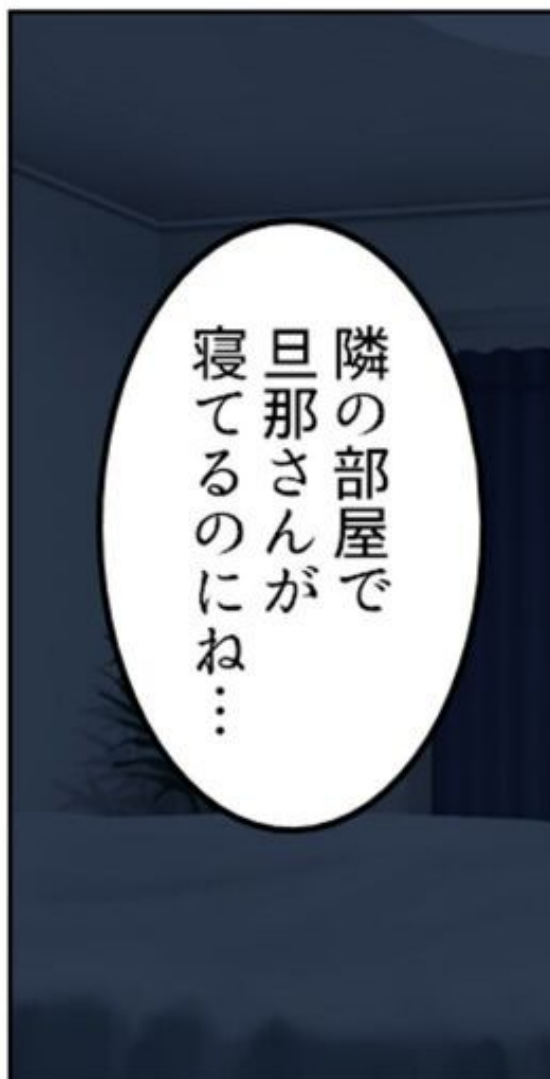





もう、どこかで  
買ってくるのよ  
いつも…



ふふ、と言いつつ  
やる気満々  
なんでしよう？



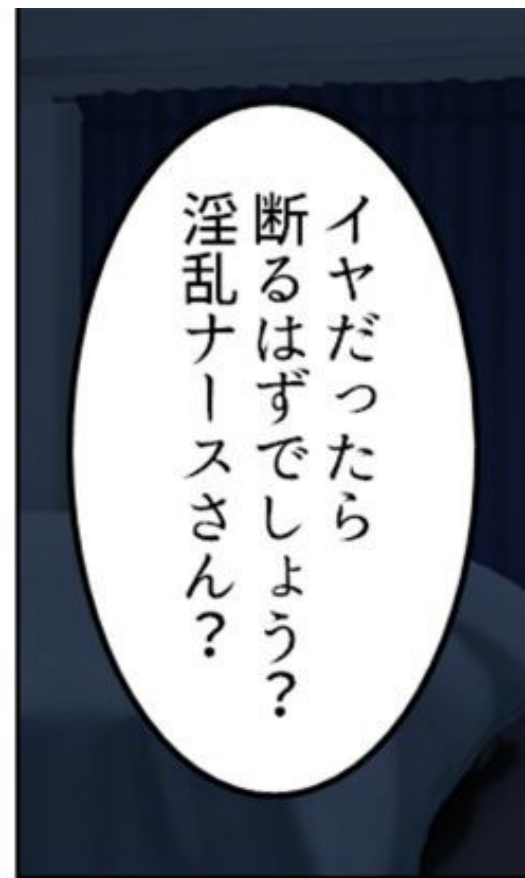
隣の部屋で  
旦那さんが  
寝てるのね…



だって、  
准一くんが  
今日はここが  
いいって言うから…



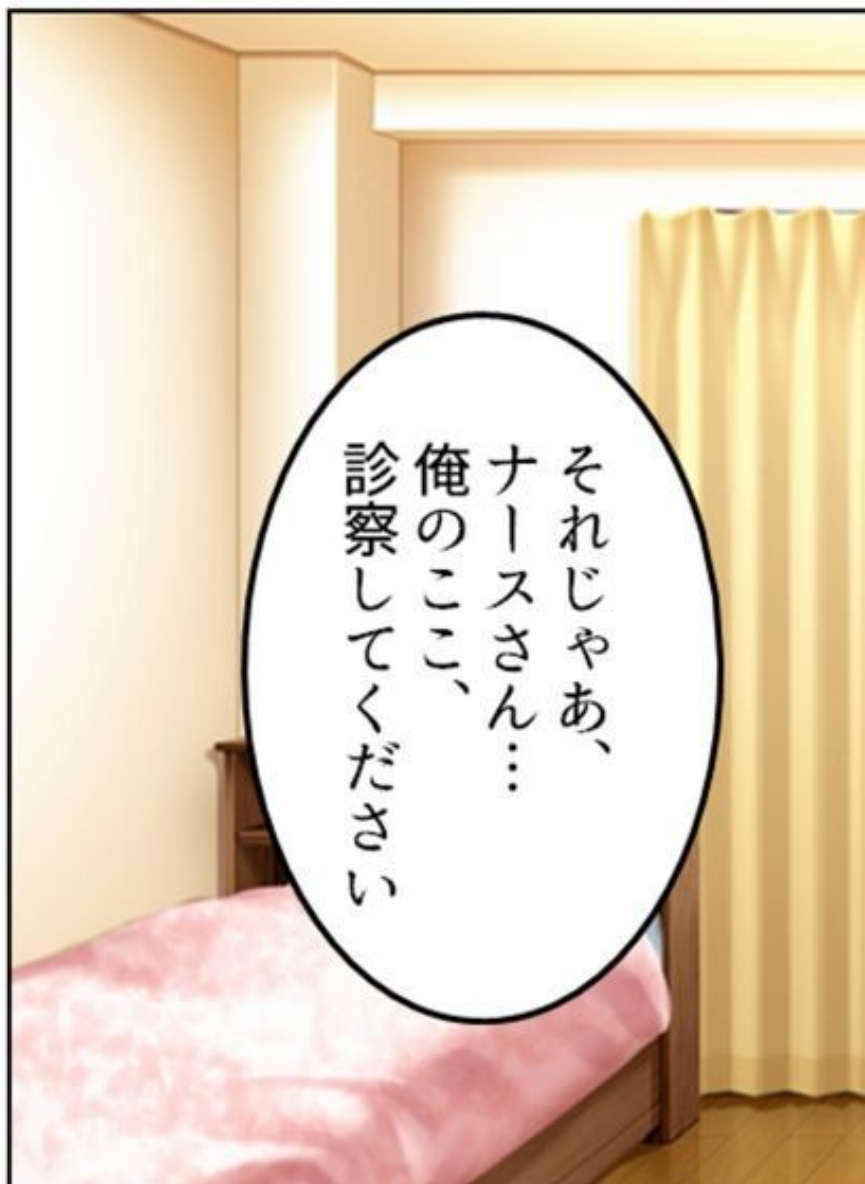
もう、イジワル…



イヤだったら  
断るはずでしょう？  
淫乱ナースさん？



うふふ、こんな  
腫らしちゃったのね？



それじゃあ、  
ナースさん…  
俺のここ、  
診察してください





んっ…  
すごく硬い…

ぐにゅ

ぐにゅ



うふふ…  
もっと硬くなって  
きてるわね



はあっ…  
それ、すごく  
気持ち良いです…





あん、ピクピク  
してる…

びくっ  
びくっ



っ…  
だ、だったら  
俺にも考えが  
ありますよ…!!





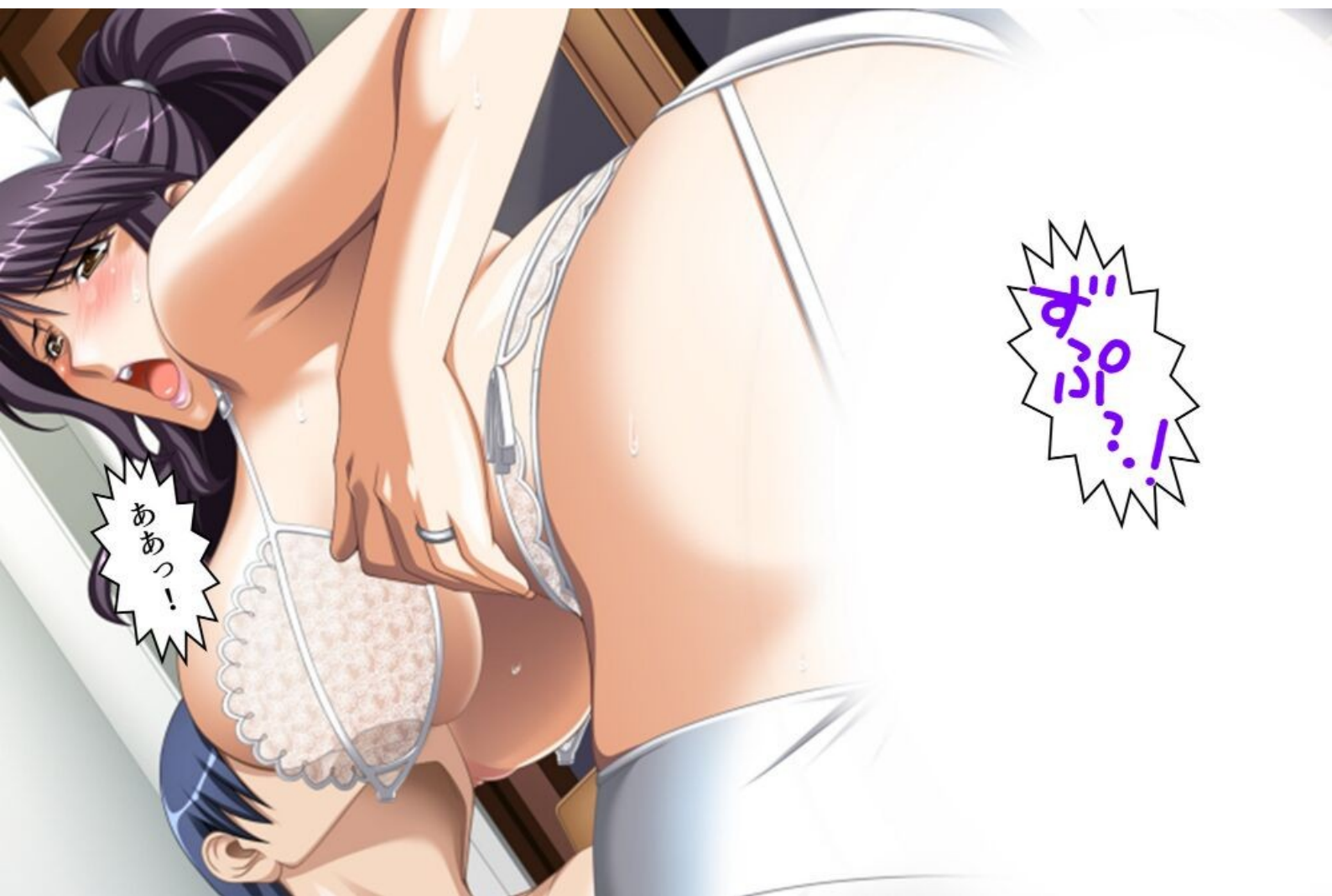
ぐちゅ  
ぐちゅ

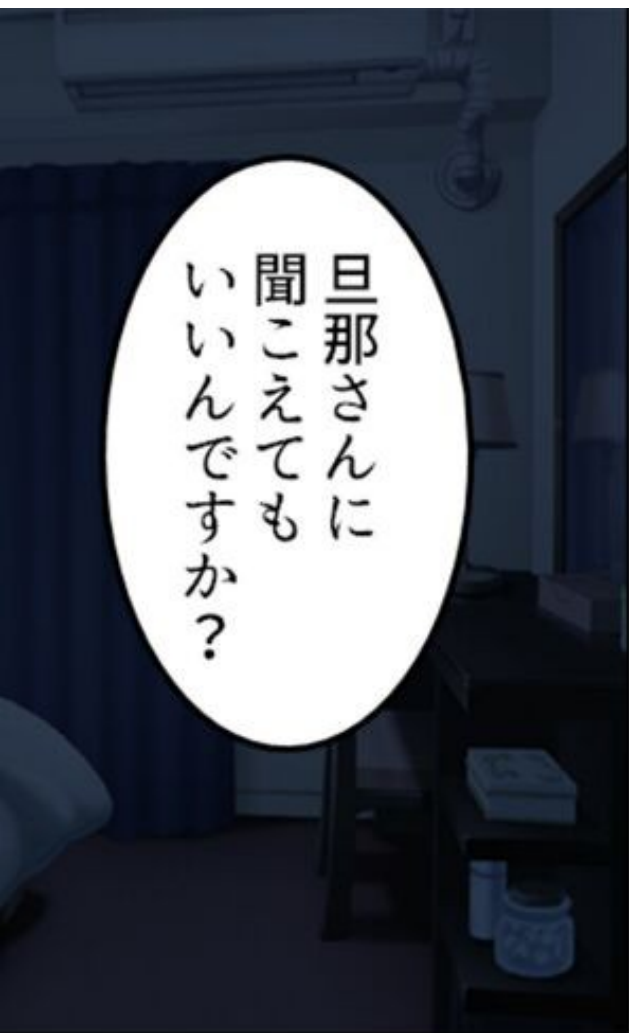
ぐちゅ  
ぐちゅ

愛液が  
さつきより  
ぐちゅぐちゅ  
いってますね…



これなら、  
もう入れても  
いいですよね？







ふふ、  
じゃあこっちも  
激しくしますね

じゅる  
じゅる



うらん...

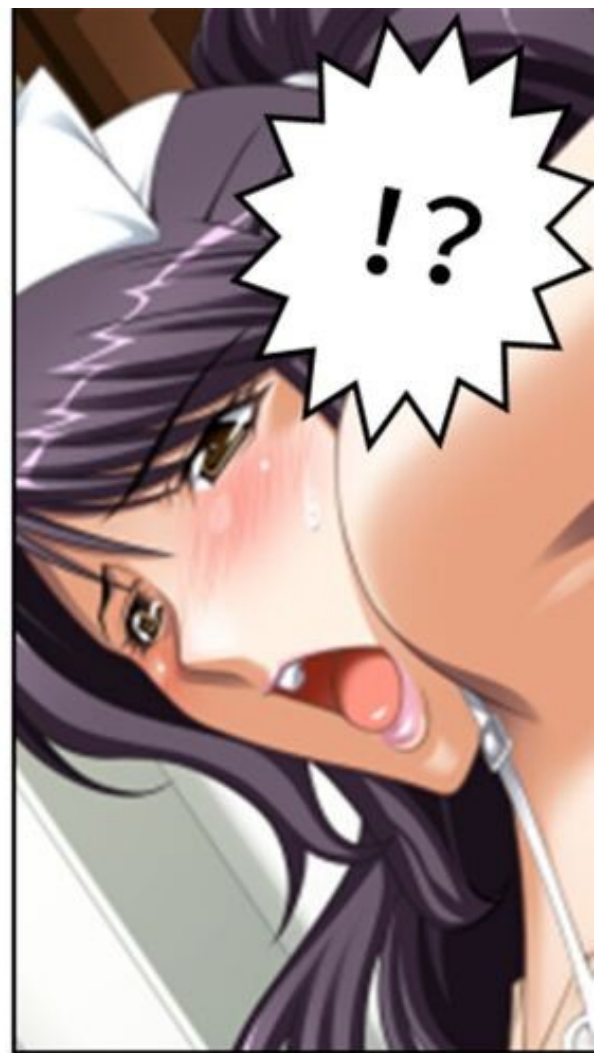


ああんっ!  
ダメえ...!!

びくん!



これ以上  
大きな声出すと、  
起きるかも  
しれないですね……？



!?



ああ……  
だ、ダメ……！  
声がつ……！



いっそ、  
こっちに混ぜたって  
もらいますか？

ずぱっ

ぐちゅ

ずぱっ



声出して  
イツちやう……!



夫に  
バレちやう  
かもしれないのに……!



実際にバレたら  
どうなるのだろうか？  
そんな不安が  
よぎることもある……

じゅぷ

ぶさゆ



ああ、  
准一くん……！  
准一くん……！

だが：色気のある声と、  
目の前で揺れる胸が：  
俺の理性を  
簡単に奪っていく



じゅぷ

びさゅ

ちぷっ

俺も栄子さんも、  
互いの体を貪りつくす



出しますよ  
栄子さん！



!!  
!!  
!!  
!!  
!!



いつまでも、  
いつまでも…

あっ…  
ああっ…!!

完